2014年度
プラン・ジャパン 年次報告書

ANNUAL REPORT 2014

2013/7～2014/6

子どもと築く、未来のしくみ

Plan
プラン・ジャパン

2015年1月発行　発行：公益財団法人プラン・ジャパン

ごあいさつ Salutation

公益財団法人
プラン・ジャパン 理事長
川上隆朗

公益財団法人
プラン・ジャパン 専務理事
鶴見和雄

2014 年度年次報告書のお届けにあたり、日ごろからの皆さまのご理解とご支援に心より御礼申し上げます。

ここ数年プラン・インターナショナルは、「One Plan, One Goal」を合言葉に、国際組織をあげて広範にわたる改革プロジェクトを推進してきており、期限の 2016 年度末を前に既にいくつかの主要な成果を生み出しています。

設立以来約 80 年の歴史と経験を踏まえ、プランは途上国の貧困層のなかでもとりわけ困難な立場にある人々、これまでの開発・発展から取り残された人々にまで届く支援に挑戦しています。それは例えば、女性や女の子たち、拡大する社会格差や差別に苦しむ人々などです。これらは 2015 年を期限とする国連ミレニアム開発目標（MDG s）の議論でも次なる開発課題として引き継がれる大切な視点です。

プラン・ジャパンでも、Because I am a Girl キャンペーンを通じて女の子・女性たちへの支援の重要性を訴えるとともに、早すぎる結婚をさせない社会への変革を促す、障がいのある子どもに寄り添う、山岳地域の子どもが安全な校舎で学べるようにする、などの様々な支援を実施しています。ぜひ本報告書でご確認ください。

そして、プランは、国際組織、支援国、活動国などあらゆる場で、現場の活動だけでなく、組織の意思決定に若者たちの意見を反映させる仕組みづくりを加速させています。各国のプランでは、プランにアドバイスをする若者グループ「ユース・アドバイザリー・パネル」の設立が相次いでいます。プラン・ジャパンでも 2014 年 6 月にパネルを設立し、事業計画の策定に彼らのアドバイスを活かし始めています。若者の真っ直ぐな視線に真摯に向き合うことで、私たちの活動はより子どもたちに近く、より質の高いものになると確信しています。今後とも、引き続き皆さまのご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

現場からごあいさつ

事務局長
佐藤活朗

2014 年度は、女の子・男の子がともに教育や保健などの機会を活用して本来持っている可能性を伸ばしていける世界をめざし、「Because I am a Girl 世界の女の子に、生きていく力を！」を各種の活動に共通する軸として展開しました。国内で多くの賛同をいただき、職員一同大きな手ごたえと多くの感動を得た年でした。

活動国での支援事業についても、当年度は個人の支援にとどまらず企業や国際機関などパートナーの輪が拡大し、より多くの支援を実施することができました。

また、当年度には新基幹システムが稼動し、従来以上に機能的に業務を進める基盤が整備されました。

私たちは信頼される国際 NGO を目指し、当年度の結果を振り返り必要な改善を行い、活動地域で一人でも多くの子どもが健やかに成長できるよう、積極的に取り組んでいきます。引き続き支援をいただけますようお願い申し上げます。

ベトナム
船越美奈 職員
「少数民族地域における教育改善プロジェクト」担当
（2012 年 12 月よりベトナム赴任）

プロジェクト実施対象地域は全て山岳地帯にあります。中でも遠いハザン省で、授業に参加せず小学校の水道で野菜を洗う 9 歳の少女に会いました。母親がいないため、父親から家事をするよう言われていると話す少女。その家を数カ月後訪れる機会がありました。少女は「いつか先生になりたい」と語り、父親は「教育を続けさせるため、できる限りのことをする」と約束。その夢をかなえるため、私も教育の充実に取り組む決意を改めて強くしました。

ハイチ
林 美穂 職員
「水衛生環境改善事業プロジェクト」担当
（2013 年 10 月よりハイチ赴任）

アクセスが困難で経済状況も悪い農村部では、下半身裸で外を歩き回っている幼児をよく見かけます。飲み水はおろか洗濯に必要な水もままならないためです。しかし幼児期をそうした環境で過ごすことが、屋外排泄を習慣化させることにもつながっています。プランの啓発活動の努力は徐々に実を結び、人々はトイレの必要性を認識し、350 世帯以上がトイレを建設・修善しました。衛生教育を促す地域住民からなるクラブを核に、今後も衛生知識の向上と行動の変容を図っていきます。

評議員名簿

役職名	氏名	常勤・非常勤	
評議員会議長	大島陽一	非常勤	公益財団法人日独協会評議員
評議員	青本健作	非常勤	学校法人明治学院理事長
評議員	飯田百合子	非常勤	株式会社レオズインターナショナル代表取締役兼 COO
評議員	一井呉夫	非常勤	ＴＶエイジア株式会社コンサルタント
評議員	佐藤大吾	非常勤	一般財団法人ジャスト・ギビング・ジャパン代表理事
評議員	平 久直	非常勤	税理士
評議員	滝田 栄	非常勤	俳優
評議員	畠澤 保	非常勤	弁護士
評議員	増田明美	非常勤	スポーツジャーナリスト、大阪芸術大学教授
評議員	松井 陽	非常勤	聖路加国際大学看護学部特任教授
評議員	宮代昌三	非常勤	八丈ビューホテル株式会社代表取締役
評議員	安田祥子	非常勤	声楽家

2014 年 9 月 30 日現在／評議員 12 名

役員名簿

役職名	氏名	常勤・非常勤	
理事長（代表理事）	川上隆朗	非常勤	元国際協力事業団（JICA）総裁
専務理事（代表理事）	鶴見和雄	常勤	公益財団法人プラン・ジャパン専務理事
理事	大崎麻子	非常勤	Gender Action Platform アドボカシー・スペシャリスト、関西学院大学客員教授
理事	金山智子	非常勤	情報科学芸術大学院大学教授兼産業文化研究センター長
理事	喜多悦子	非常勤	公益財団法人笹川記念保健協力財団理事長
理事	小林俊和	非常勤	元新日本石油株式会社（現 JX 日鉱日石エネルギー株式会社）代表取締役副社長
理事	杉下恒夫	非常勤	ジャーナリスト、一般財団法人国際開発機構（FASID）理事長
理事	富本幾文	非常勤	山口大学経済学部教授兼副学長補佐
理事	長坂寿久	非常勤	拓殖大学客員教授
理事	広瀬崇子	非常勤	専修大学法学部教授
理事	森 和之	非常勤	都市総合サービス株式会社代表取締役社長
理事	湯川昌郎	非常勤	元三菱商事株式会社役員待遇
監事	北村信彦	非常勤	公認会計士、税理士
監事	和田義博	非常勤	公認会計士、税理士

2014 年 9 月 30 日現在／理事 12 名、 監事 2 名

数字で見る プラン・ジャパンの2014年度 決算の概要

2013年7月1日から2014年6月30日まで＊詳細については P35 をご確認下さい

第2回国際ガールズ・デーでは、活動国に住む女の子を招へいし、
途上国の女の子たちを取り巻く状況について広く訴えました。日本社会へ向けて、より意識啓発を活発化した一年でした。

収入内訳　合計32億7070万7千327円

- スポンサーシップ寄付金 20億1255万4千円（61.5%）
- マンスリー・サポーター寄付金 4億1493万4千12円（12.7%）
- プロジェクト特定寄付金 3億9317万9千115円（12.0%）
- プロジェクト無特定寄付金 7882万7千324円（2.4%）
- 受取補助金・事業収益 3億6773万1千467円（11.2%）
- 受取利息他 348万1千409円（0.1%）

支出内訳　合計32億5617万525円

- プログラム実施費等 24億1651万4千70円（73.9%）
- 国内事業費（広報費・事業関連費） 7億2833万4313円（22.3%）
- 管理費 1億1132万2千142円（3.4%）

※収入合計を100%とした比率です

国内運営費内訳（広報費・事業関連費・管理費の合計）

合計8億3965万6千455円

- 人件費　3億513万6千668円（36.3%）
- 広告・広報費 2億3024万514円（27.4%）
- 事務費 1億9393万6千850円（23.1%）
- 施設費 1億588万6千467円（12.6%）
- 諸雑費 445万5千956円（0.5%）

国内運営費内訳の説明

人件費：職員給与、通勤費、翻訳料、社会保険料など　広告・広報費：広告掲載料、製作費、イベント実施費など
事務費：郵送料、印刷代（パンフレット製作費、機関誌製作費）、電話代、振込料金など
施設費：事務所賃貸料、水道光熱費、リース料など　諸雑費：火災保険料、資料費、会費など

数字で見る一年（2014年6月30日現在）

スポンサー	3万8,551人
チャイルド	4万1,482人
年間に発送されたスポンサーからチャイルドへの手紙やギフト	2万3,902通
年間に届いたチャイルドからスポンサーへの手紙や一年の歩み	7万4,311通
日本のスポンサーをもつチャイルドのうち、手紙やギフトを年間で1回以上受け取った率	33.16%
登録終了したチャイルド（卒業年齢、地域からのプランの撤退などの理由による）	5,876人
プラン・マンスリー・サポーター	1万5,517人
ガールズプロジェクト継続支援者	4,053人
プラン一般プロジェクトによせられた支援件数	4,232件
ガールズプロジェクトに寄せられた支援件数	1,903件
緊急支援によせられた支援件数	2,093件
プラン特別プロジェクトによせられた支援件数	61件
支援内訳：企業・団体	27件
支援内訳：個人	34件

補助金による支援	16件
事務局を訪問した生徒・学生数	75校151人
講師派遣の回数とその対象人数	40回4,908人
プラン支援者の会の開催回数	63回
職員（常勤役員除く）	58人
来局ボランティア	53人
翻訳ボランティア	609人
ユース・アドバイザリーパネル	6人
プラン・フレンズ（開発教育ボランティアグループ）	17人
G-SChooL（学生ボランティアグループ）	18人

数字で見る プランの世界での2014年度 決算の概要

2013年7月1日から2014年6月30日まで＊詳細については P38 をご確認下さい

収入内訳　合計7億2167万8千ユーロ

- スポンサーシップ寄付金 3億5426万2千ユーロ（49.1%）
- 受取助成金 2億3166万5千ユーロ（32.1%）
- 現物助成金 3046万2千ユーロ（4.2%）
- その他寄付金 9730万1千ユーロ（13.5%）
- その他収益 798万8千ユーロ（1.1%）

支出内訳　合計7億32万9千ユーロ

- プログラム費　5億3595万ユーロ（74.3%）
- 広報費 1億47万6千ユーロ（13.9%）
- 管理費 6390万3千ユーロ（8.9%）

※1ユーロは139円です（2014年6月30日現在）　※収入合計を100%とした比率です

プランが世界的に展開した Because I am a Girl キャンペーンも2年目を迎え、第2回国際ガールズ・デーでは、
世界各地でイベントを実施。女子教育の必要性を各国政府へ訴えました。

数字で見る一年（2014年6月30日現在）

スポンサー	110万5,024人
チャイルド	141万7,588人
チャイルドの内訳（%）：女の子	63%
男の子	37%
活動国	50カ国
活動地域	240地域
活動しているコミュニティ	8万6,676コミュニティ
年間に行ったプログラム　＊1	225件
年間に行ったプロジェクト　＊2	5,043件
職員（活動国）	8,408人

＊1　プログラムとは、各国が長期的視野（平均5年）のもとに計画・実施する事業の大枠です。1つのプログラムの中で、複数のプロジェクトが実施されます
＊2　各プロジェクトの規模には大きな違いがあり、件数だけで活動全体の規模をはかることはできません。この件数はあくまで参考です

2014年度 プランが取り組んだこと。

世界中のプランの活動の一部を、数字でお届けします

8万6,676カ村
で活動

8,150万人の
子どもたちと
ともに活動

3万4,398の
政府や自治体、
支援団体、
住民組織と連携

1億6,490万人の
地域住民と
協働しました

85万9,450人に
知識や技術を
伝えました

From NewYork ニューヨーク

俳優フリーダ・ピントーさんとネパールの若者が、女の子の明るい未来を描いた絵を浮かび上がらせました

2014年度のハイライト

2013年10月11日
第2回 国連「国際ガールズ・デー」
ますます認知を広めパワーアップ！

プランが主導し国連に働きかけて制定された、国際ガールズ・デー。
武装勢力から銃撃され大怪我から回復し、国連で女子教育の重要性を訴えた
マララ・ユスフザイさんの演説を受け、
日本で、世界で、女子教育への意識が一段と高まりました。

From India インド

女子教育への支援を訴え Raise Your Hand

From Nicaragua ニカラグア

国際ガールズ・デーのスポーツイベントに参加

From Finland フィンランド

募金活動に参加したボランティア

フォーラムで社会に発信

プラン・ジャパンでは、パキスタンの活動地域に住む女の子を招へいし、国連大学で国連広報センターとフォーラムを共催。多くの市民が参加し耳を傾けました。

From Tokyo 東京

フォーラムの登壇者
左から　国連広報センター所長 根本かおる氏、プラン・ジャパン理事　大崎麻子氏、中央大学副学長　加藤俊一氏、1人挟んで　パキスタンの女子大学生イルム・ヌール氏

一年の出来事

プランの一年を、日本と世界からそれぞれ振り返ります

プラン・ジャパンの出来事

マララ・デー記念イベント「世界を変える一人に！全ての女の子に教育を」

国際ガールズ・デーに向けて参加者たちが、世界の女の子たちを応援するアクションを宣言しました。

カレンダー付きグリーティングカードキャンペーン

10月末までに多くの方が参加。8,047通を現地へ送りました。

インド洪水緊急・復興支援募集

インド北部のウッタラカンド州で広範囲に及ぶ、洪水、土砂崩れが発生。7月から緊急復興支援を開始。

現地で聞き取り調査をする澤柳職員

国際女性ビジネス会議

アドボカシー担当城谷職員が登壇。ビジネス界で活躍する女性リーダーに世界の女の子の現状を伝え、寄付は未来への投資であることを訴えました。

ベトナム・スタディツアー報告会

2013年6月に行われたスタディ・ツアー参加者たちによる報告会が、9月1日に行われました。

Run for Girls 第5弾 越後湯沢秋桜ハーフマラソン

9月30日、スポーツ・ジャーナリストでプラン・ジャパンの評議員でもある増田明美さんと一緒に走る10キロ。軽快なトークで会場に集ったランナーたちにプランの活動をアピールしてくれました。

第2回国際ガールズ・デー記念イベント「世界を変えるもう一人のマララたち」

パキスタンから女子大学生を招へい。10月5日、日本の学生たちとともに、国連大学で女子教育の重要性を日本社会へ訴えました。

「Girl Rising」初上映

10月11日の国際ガールズ・デー当日、途上国の女の子たちが直面する困難や挑戦を実話に基づいて描いたオムニバス映画を初上映。

2013年

7月　**8月**　**9月**　**10月**

世界の出来事

マララ・デーの7月12日、プランから15人の若者が使節として国連ユース会議に出席

プランの若者代表が国連ユース代表と会い教育を受ける権利を訴えました。

世界先住民の国際デー

8月9日は言語や文化の違いにより、社会から疎外されている先住民族の人々が抱える課題への取組みを考える日。

プラン・カメルーンは、ユネスコ、現地機関とともに特に厳しい状況にあるバカ・ピグミー族の人々の権利と尊厳を守り、その改善に取り組んでいます。

第6回アジア太平洋人口会議 in バンコック

9月20日に行われた会議にプランが参加。市民登録と人口動態統計に関する議論にプラン・インドネシアから若者が参加し、自身の出生登録について経験を話しました。

国際ガールズ・デー 各国でイベントを通じ、意識啓発を行いました

ニカラグア　女子教育とジェンダー平等を訴えて、行進しました。

パラグアイ　企業の協力を受け、自転車レースを開催。

活動地域の女の子の通学路がBBCニュースサイトに登場！

タンザニアの8歳の女の子シルビアは、毎日14キロ、学校と家を往復します。どんなに遠くても、学校に通えるだけシルビアは幸せ？小さな女の子が歩く実際の道のりがBBCニュースサイトの写真集に掲載されました。

「世界ガールズ白書」2013年版が完成

「二重の危機―思春期の女の子と災害―」

プラン・ジャパンの出来事

フィリピン台風 30 号（ハイエン）緊急復興支援開始

2014 年 2 月末までに、4,864 万 3,338 円の寄付を日本の皆さまから集め被災地に送りました。

ベトナム台風被災者　緊急支援

10 月～ 11 月に中部クアンビン省で活動。内山、浜田職員を派遣。

林職員　ハイチへ赴任

学校とコミュニティの水衛生環境を改善するためのプロジェクトを開始。

プラン・アカデミー第一期終了

6 つのグループがそれぞれのアクションを計画し、講座終了後もアクション実施に向けて継続的に取組みました。
※ P31 参照

国連大学　こころときもちをケアしあう世界へ WHO版心理的応急処置（PFA）とは

12月12日に行われたパブリック・フォーラムに後藤職員が登壇。プランのプログラムとWHO版PFAについて話しました。

「わたしはマララ 教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女」出版記念トークセッション

プラン支援者の角田光代氏、本の翻訳者の金原瑞人氏、西田佳子氏が参加。12 月 7 日東京の書店で開催。

少数民族地域における教育改善プロジェクトのモニタリング

1 月上旬、道山職員ベトナム出張。

冨田職員　スーダン出張

2 月 18 日から約 2 週間、Because I am a Girl プロジェクト「女の子の早すぎる結婚対策プロジェクト」視察。

ペルー案件フォローアップ調査

外務省より委託を受け、ペルー日本大使館が実施する支援案件 5 件の調査などに協力。2月15 日から 13 日間、佐藤事務局長と番場職員が赴きました。

Girl Rising 東京で全編初上映

国際ガールズ・デーに続き 2 月 28 日に全編を初上映。会場入り口には、チャイルドの紹介写真が飾られ、水汲み体験ができるコーナーでは、多くの方が足を止めて水の重さを実感していました。

TOKYO FM & FM OSAKA「こどもの日」公開生放送

公開放送にあわせて、途上国の子どもたちのお手伝いを日本の子どもたちが体験。一緒に途上国の子どもたちの現状を考えました。

3/2 名古屋　3/5 仙台 災害時の支援フォーラム開催

世界各地の大規模災害の復興過程を実証的に研究している米国パデュー大学准教授のダニエル・アルドリッチ氏を招へい。

世界一大きな授業実施

世界中の子どもたちが教育をうけられることを目指し、同期間に世界同時開催される「世界一大きな授業」。プラン・ジャパンでも 4 月 26 日と 5 月 10 日の 2 回行いました。

参加者は、座学のほかにクイズを通して教育の必要性を体験しました

アースデー東京 2014

4 月 19-20 日の 2 日間で、来場者 700 人以上が Raise Your Hand アクションに参加してくれました。

WOMAN EXPO TOKYO 2014

5 月下旬「日経ウーマノミクス・プロジェクト」の一環として開催されたイベントにブースを設置。来場した多くの女性たちに、途上国の女の子の現状を訴えました。

プラン・アカデミー 第 2 期開講

高校生から社会人まで、新たなアクターが集まりました。

ユース・アドバイザリー・パネル設置

若者の声をプランの活動に取り入れるため、6 名を選任。

ウガンダ、南スーダン難民支援開始　山形職員派遣

避難民の子どもたちと

佐藤事務局長と杉下理事 スリランカ視察

6 月上旬紛争後の「子どもの保護とケア及び地域社会への復帰支援プロジェクト」を視察。

2014年

11月　12月　1月　2月　3月　4月　5月　6月

世界の出来事

台風ハイエン フィリピンを襲う

被災者数 1,500 万人、損壊家屋 120 万戸、家を失った人々の数は、子ども 180 万人を含む 413 万人。緊急物資支援をはじめ、子どもや若者への心のケアなど、長期的な復興支援を進めています。

国際障がい者デー「Include us!」発行

世界の人口の 15%にあたる 10 億人以上が、障がいとともに暮らしています。プランは、障がいのある子どもたちを含めた活動への取組みと、そのデータを取りまとめた報告書を発行しました。

世界エイズ・デー

プラン・ウガンダでは移動クリニックを開き、母子感染の防止や子どもたちの健康な成長の促進に取り組んでいます。

妊産婦への HIV 検査

世界経済フォーラム

1 月 22-25 日にダボスで行われた年次総会出席にあわせ、プランは小規模金融における NPO の役割についてのレポートを発行。

FGM/Cゼロ・トレランス・デー

プラン・マリはアフリカ各国政府へ根絶の働きかけを進めています。

地域のリーダーが女性性器切除の根絶を公式に宣言した書類に署名

国連「女性の地位委員会」にプランの活動地域から女の子が参加

2014 年のテーマは、「女性・女児のミレニアム開発目標を達成していく上での成果とチャレンジ」。分科会に参加したプランの女の子たちは、ジェンダー不平等について発表をしました。

ナイジェリアで、ボコ・ハラムによる女子生徒誘拐事件発生

世界マラリア・デー

プランはこの 5 年間に、マラリア予防のため蚊帳を 2,100 万枚配布しました。

エボラ出血熱拡大への警戒高まる

感染防止を呼びかける資料をつくりました。※ 2014 年 8 月より緊急支援を開始

ナイジェリア政府へ声明を発表

プランは誘拐されたままになっている女子学生たちを、ソーシャルメディアを通じ、ナイジェリア政府やその他各国政府、国連などに、女の子たちの権利を守るよう、声明を出しました。

ワールドカップサッカー ブラジルで開催

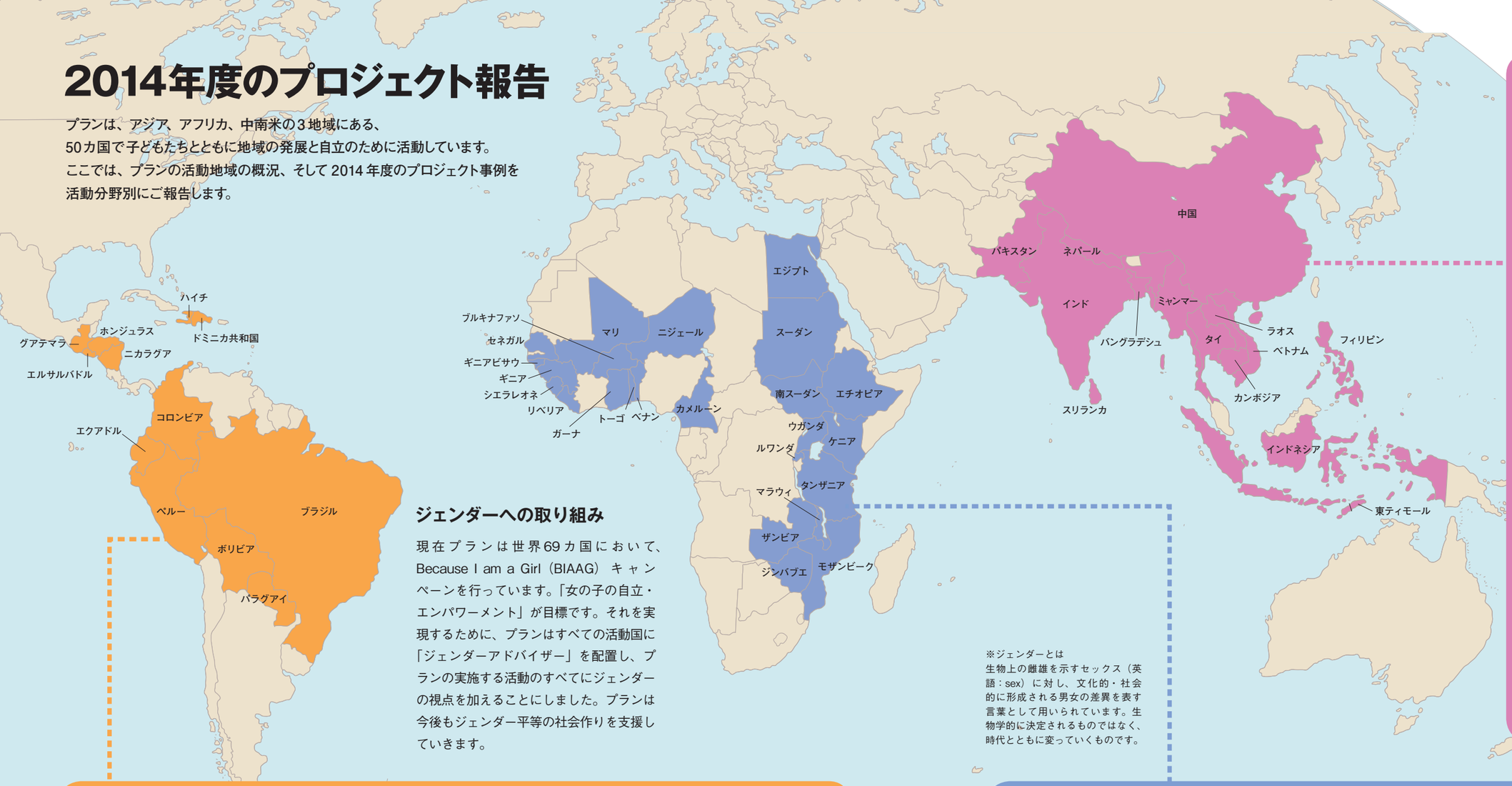
期間中、多くの観光客がブラジルを訪問しますが、その影で子どもの性的搾取の増加も危惧されます。プランは、子どもの性的搾取を防止するキャンペーンをレシフェ、ナタルで行いました。

2014 優勝ゴールを決めたマリオ・ゲッティ選手はプランのスポンサーです。

写真提供 Plan Germany

2014年度のプロジェクト報告

プランは、アジア、アフリカ、中南米の３地域にある、
50カ国で子どもたちとともに地域の発展と自立のために活動しています。
ここでは、プランの活動地域の概況、そして 2014 年度のプロジェクト事例を
活動分野別にご報告します。



ジェンダーへの取り組み

現在プランは世界69カ国において、Because I am a Girl（BIAAG）キャンペーンを行っています。「女の子の自立・エンパワーメント」が目標です。それを実現するために、プランはすべての活動国に「ジェンダーアドバイザー」を配置し、プランの実施する活動のすべてにジェンダーの視点を加えることにしました。プランは今後もジェンダー平等の社会作りを支援していきます。

※ジェンダーとは
生物上の雌雄を示すセックス（英語：sex）に対し、文化的・社会的に形成される男女の差異を表す言葉として用いられています。生物学的に決定されるものではなく、時代とともに変っていくものです。

ASIA
アジア

増加する若年層の失業問題への対応が社会の安定化に不可欠。また気候変動の影響による自然災害への対応が喫緊の課題

増大する若年層の失業問題はこの地域の大きな問題であり、社会の不安定化の要因のひとつになっています。また多くの国が海に囲まれていること、台風の通り道でもあり気候変動の影響を受けることにより、毎年の自然災害で大きな被害を受けています。この地域の初等教育環境はかなり改善してきました。現在、就学前の子どもたちへの身体的・知的成長を促す支援に力を入れています。子どもや女性、少数民族といった社会の弱い立場にある人々への差別の克服もこの地域で大きな課題となっています。

5つの優先分野

- 若者の能力強化をとおした就業促進
- 母子保健支援、健全な成長のための栄養・保健衛生支援
- 気候変動による自然災害に対する緊急支援、防災・減災対策
- 児童労働や虐待・暴力・差別からの保護
- 就学前児童に対する健全な成長のための栄養・健康・教育支援

LATIN AMERICA
中南米

依然として残る格差の拡大や自然災害の被害とともに、発展から「取り残された人々」への支援の強化が必要

他の地域と比べても貧富の差が非常に大きいこの地域において、少数民族、子ども、女性といった弱い立場にある人々への支援が喫緊の課題です。また彼ら「取り残された人々」こそが、頻発する様々な自然災害から最も影響を受けるグループです。彼らに対する生計基盤の安定のための支援、そして災害のリスク削減、健全で健康な心身の成長の確保がこの地域での優先度の高い支援となっています。

5つの優先分野

- 就学前児童の健全な成長のための栄養摂取・保健・衛生支援
- 家計安定のための職業訓練、貯蓄グループ、小規模金融の普及支援
- 自然災害への緊急支援、リスク削減対策
- 児童労働や虐待・暴力・差別からの保護
- 性と生殖に関する健康とその教育の普及

AFRICA
アフリカ

多くの紛争や致死率の高い感染症の蔓延、それに伴う政治・経済・社会基盤の不安定化、長引く貧困で問題は山積み

西アフリカのマリ、ニジェールそして東アフリカのスーダン、南スーダンなどでの長引く紛争に加えて、有効な治療薬のない感染症が西アフリカを中心に猛威を振るっています。厳しい自然環境と脆弱な社会・経済の基盤。それにより、貧困状態からの脱却は容易ではありません。最も脆弱な存在である子どもや女性の保護を中心に、生計向上のための活動、保健・衛生環境の改善等を通して、地域の生活環境のボトムアップに取り組んでいます。

5つの優先分野

- 子どもを中心にすえた紛争や自然災害からの保護
- エボラ出血熱等の感染症への緊急対応
- 基礎教育へのアクセス及び質の改善
- 家計安定のための貯蓄グループ、小規模金融の普及支援
- 母子保健支援、性と生殖に関する健康と教育の普及

プラン・ジャパンの支援方法

プラン・ジャパンでは、以下の方法を通じて全国約６万人の皆さまから寄せられたご支援をもとに活動しています。

S プラン・スポンサーシップ

スポンサーと呼ばれる継続的な支援者からの資金で、活動地域の子どもや住民が時間をかけて地域の改善を進めます。スポンサーは特定の子ども（チャイルド）との交流を通じ、異文化への理解を深めます。50 か国で実施。※ミャンマー、リベリアのチャイルドは現在紹介していません。

M プラン・マンスリー・サポーター

「ストリート・チルドレンと働く子どもたち」「紛争と災害」「ＨＩＶとエイズ」「虐待」「障がい」。途上国の子どもたちが直面する社会問題の解決に特化して支援します。2014 年度は 14 か国で 14 プロジェクトを実施。

一般 プラン一般プロジェクト

プランの専門分野である地域開発の代表的なプロジェクトを、年度ごとに選んで支援します。寄付をする際に、関心のあるプロジェクトを指定できます。2014 年度は 9 カ国で 9 プロジェクトを実施。

特 プラン特別プロジェクト

独立したひとつのプロジェクトを、おひとりの支援者、または法人やグループにまるごとご支援いただく方法です。現地のニーズと支援者の希望を考慮します。2014 年度は 25 カ国で 65 プロジェクトを実施（教育：41 件、保健：9 件、水と衛生：4 件、BIAAG：8 件　その他：3 件）。

緊 緊急・復興支援

災害や紛争が生じた際に、支援を募ります。子どもの権利保護の視点を盛り込み、復興までを視野に入れた長期的な支援を行います。2014 年度はインドとフィリピンの 2 カ国で 2 プロジェクトを実施。

補 補助金によるプロジェクト

公的機関などの補助金制度などを活用した支援。現地事務所と協力してプロジェクトを形成、実施します。2014 年度は、10 カ国で 16 件のプロジェクトを実施。

教育

Plan's Goal プランの目指すゴール

「子どもたち、若者たちが教育を受ける権利を獲得し、それを十分に享受する」

Education

10万4,231人の教師※や学校関係者にトレーニングを実施。2,454の学校を建設・修繕しました。

※ボランティアを含む

子ども若者の声

「パキスタン中の女の子が教育を受けられるようにしたいです。女の子への教育は重要です。自覚をもってライフスキルを学ぶことができるし、家計が大変なときも、自分でお金を稼いで家族を助けることができるのです」（フマイラ　パキスタンの18歳・女性）

読書習慣の推進　コロンビア　S

活動と成果
❶ 1,300人の子どもが公式祭典に参加、レポーター・グループに69人を超える若者が参加
❷ 2010年からは、読書の習慣を奨励する2つのプログラムを実施

世界的な文学祭、ヘイ・フェスティバルを軸に読書習慣を奨励

エル・ポソの子どもたちを訪ねて、自分の俳優体験を語るガエル・ガルシア・ベルナルさん

アルゼンチンの作家 / 監督、ファン・ホセ・カンパネラさんも参加

カルタヘナは、コロンビア北部カリブ海沿岸にある歴史的な都市で、毎年、世界的な文学祭であるヘイ・フェスティバルが開催されます。ノーベル文学賞受賞者、作家、詩人、映画監督、芸術家がさまざまな国から集い、「文学の話し合い」を4日間行います。プランは2006年からヘイ・フェスティバルに参加し、プロジェクトを実施しています。弱い立場にある子どもたちが積極的に参加できる総合的なプログラムを提供しています。

読書習慣のなかった地域に教育プログラムを実施

活動の背景には、コロンビア人は年間1.9冊の本しか読まないという統計があります。また、同じ調査で、読書をした人の63.8%が読書に興味がないか好きではない、37.2%が読書をする時間がない、18.4%が新聞や雑誌を読む方が好きと回答。言いかえれば、読まなければならないから読むのであって、楽しいから読むわけではないのです。

そこで、プランはこの祭典を活用し、年間を通して読書を奨励するプロジェクトを立ち上げました。2010年からは、読書習慣を促すため246人の小学校教師にトレーニングを実施、8,048人の児童・生徒に読み書きを奨励するためのガイドブックを配りました。また、2012年には読書と子どもの成長プログラムを開始。6歳から12歳までの子どもの読み書きの力を伸ばすとともに、感想を言い合い、交流する場を設けることでコミュニケーション能力を高めました。4,000人以上の子どもたちが参加しました。

ヘイ・フェスティバルには子どもと若者が積極的に参加

ヘイ・フェスティバルでは、作家とのパネル・ディスカッションが開かれ、コミュニティから毎年1,300人の子どもと若者が参加しています。さらに、コミュニティ・ヘイ・フェスティバル・レポーターズというグループの活動を通して子どもたちの意見に耳を傾けています。

レポーターの声

ヘイ・フェスティバルの活動で世界を広げることができました

9回目となる文学祭に1,300人の子どもが参加

コミュニティ・ヘイ・フェスティバル・レポーターのアンジー・パオラさん（19歳）とホセ・フランシスコさん（16歳）、そして1,300人以上の子どもたちは、プロジェクトを通して視野が広がり、文学の世界に近づけたと感じています。

10歳から参加しているアンジー・パオラさんは、パートタイムで働きながら大学で学び始めました。「コミュニティ・ヘイ・フェスティバルのおかげで本が身近になり、読書が好きになりました。作家は、私たちに大切にしなければならないことがあると教えてくれたのです」

祖母と暮らしている11年生のホセ・フランシスコさんは、11歳からこのプロジェクトに参加しています。「読書の文化は、小さな子どもから若者まで根づきました。私は、『私の哀しい現実』という本を書き、祖母に助けてもらいながら出版の交渉をしています。ヘイ・フェスティバルは、私たちの障壁を壊す機会なのです」

女の子のための教育　パキスタン　一般

活動と成果
❶ 公教育カリキュラム導入のための教師 10人の採用とトレーニング
❷ 教科書（算数、ウルドゥー語、英語、各1,042冊）、文房具や教室の備品を支給

イスラム女子学校（マドラサ）に公教育の国語や算数を導入

イスラム女子学校の授業風景

パキスタンの辺境地域では女子教育の機会が閉ざされています。その結果、この地域の成人女性の識字率は男性の 30％に対してわずか 2 ％です。唯一の教育の場であるマドラサでは国語や算数を学ぶ機会がありません。そこで、マドラサに政府が定めた基礎科目を導入し、女の子に公教育に準ずる教育の場を提供しました。

プランは、パキスタン北部のギルギット・バルティスタン州ディアメール郡で長年活動し、地域の人々との信頼関係を築いている唯一の団体と連携しながら、プロジェクトを実施。地域の慣習や文化、伝統、イスラム教の教えを尊重し、住民が信頼を寄せるイスラム学者や長老に意見を求めながら慎重に活動を進めました。

最初は外部の団体がマドラサの運営に介入することへの反発があり、諮問委員会の設立までに時間を要しましたが、イスラム学者と学校との話し合いを重ね、理解を得ることができました。女性教師 8 人と男性教師 2 人を新たに採用し、トレーニングを実施。2013 年 10 月からは 10 校で、週 18 時間、ウルドゥー語、算数、英語の授業を行いました。2014 年 3 月に州教育省基準の進級試験を行ったところ、約 7 割の児童が進級できました。

参加者の声

マドラサ在校生
マリヤさん

「このプロジェクトのおかげで、自分の力を伸ばすことができました。私は読み書きができるようになったのです」

少数民族地域における教育改善　ベトナム　補

活動と成果
❶ 小学校 2 校 5 つの教室建設および備品支給と110校への図書と書棚の支給
❷ 授業の質を改善するため615人の教師にトレーニングを実施

教室建設とともに公用語のベトナム語を学ぶ環境を整える

支給された絵本は子どもたちに大人気

ベトナムの都市部と農村部の格差は年々広がり、中でも少数民族が多く住む山岳地域は教室が不足し、教育の質も低いままです。学校を卒業しても、十分な知識は備わりません。公用語のベトナム語を話せないまま大きくなると、就業の機会も限られてしまいます。

絵本と参加型授業で、苦手なベトナム語を克服

対象地域のハザン省、クアンビン省、クアンガイ省では、小学校 2 校の教室とトイレが完成し、約 80 人の子どもの学習環境が改善しました。すべての学校に児童用図書を支給。ほとんどの子どもが絵本を持っていない地域で、1・2 年生の全教室（202 教室）に書棚を設置しました。カラフルな絵本は大人気で、ベトナム語学習に役立っています。

対象地域の教師は、児童参加型授業や教材作成、ベトナム語指導など、年 6 回におよぶトレーニングに参加し、授業内容の改善に取り組んでいます。児童の授業への参加も増え、ベトナム語理解力も向上しつつあります。

※このプロジェクトは、外務省（NGO 連携無償資金協力）と協働し、実施しています。

参加者の声

建設対象校の教師（45 歳）
スオンさん

「児童全員が少数民族です。以前の教室は、木とトタン板でできていて雨も防げませんでした。新しい教室ができて、絵本もあるため、子どもたちは喜んで学校に来ています。ベトナム語の習得はもちろん、文化や環境に関する知識も深めています」

乳幼児教育　タンザニア　S

活動と成果
❶ 53のコミュニティ運営の乳幼児教育センターを設立。登録した子どもの数が 998 人に
❷ 教員に対する研修、管理運営についての研修、乳幼児教育についての意識啓発を促進

乳幼児教育の充実を図るためセンター建設と啓発活動を実施

乳幼児教育センターで学ぶ子ども

東部キバハ活動地域の子どもたちが乳幼児教育を受ける機会が乏しいのは、貧困により親の多くが民間の乳幼児教育費用を支払えないこと、乳幼児教育の重要性への認識が低いこと、教育施設が近くにないことが主な理由です。

コミュニティが運営する乳幼児教育センターを設立

プランは、低収入世帯の子どもたちに良質で手の届く料金で利用できる乳幼児教育の場を整備するために、コミュニティ運営の乳幼児教育センターの設立を支援しています。プランの支援により、53 のコミュニティ運営の乳幼児教育センターが設立され、センターに登録した子どもの数もそれ以前の 375 人から 998 人に増えました。

また、106 人の教師に、保育、子どもの保護、劇や芸術、教材作成に関する研修を実施。さらに、50 の乳幼児教育センターには、その管理運営、資金・人材の活用について研修を行いました。58 の村落では地方自治体と協力して、乳幼児教育の重要性についての意識啓発を行いました。

参加者の声

区議会議員
スワイさん

「栄養についての研修後、人々は乳幼児教育と栄養の重要性について理解するようになりました。当区では、子どもの家族と地域のリーダーたちが、3 つの乳幼児教育センターに計 40 万タンザニア・シリング（約 2 万 6,700 円）を寄付しました」

女の子の教育と女性教師モデル育成　シエラレオネ　S

活動と成果
❶ 西部の活動地域の10の学校で、約6,000人の女の子の教育支援を実施
❷ 政府関係機関と連携し、2013年10月に優秀教師賞を30人に授与

教育支援として手本となる教師の表彰制度を確立。意欲向上をはかる

受賞したアリスさん

シエラレオネでは、教職は給与が低く、教師は評価される機会もありません。多くの教師はきちんと教える気になれず、小・中・高等学校での生徒たちの成績不振の原因となっています。西部地域では女性と女の子の非識字率が高く、社会で不利な立場に陥っています。49％の人たちしか教育を受けておらず、そのうちの約 28％が教師をしているのです。

教育科学技術省などと連携し30人の優秀な教師を表彰

プランは、西部の活動地域の 10 の学校で、身体的障がいのある子どもも含めた約 6,000 人の女の子の教育支援を行っています。また、主に女性で、低給与にも関わらず仕事に打ち込んでいる教師を優秀教師賞として表彰しています。これは教師が優れた働きぶりを持続する意欲を高める方法のひとつです。

2013 年 10 月の国際ガールズ・デー式典では、30 人の教師が受賞。優秀教師賞の決定と表彰は、教育科学技術省（MEST）、社会福祉ジェンダー児童問題省（MSWGCA）、シエラレオネ教職員組合（SLTU）と連携して企画されました。

参加者の声

40 年の教師経験のある受賞者（55 歳）
アリスさん

「今までどの組織からも賞を受けたことはありませんでした。最も人を勇気づける女性教師として表彰され、とても光栄です。私は女の子たちに、いつも『教育は機会へのドアを開ける鍵です』と励まし、学校に通い続け、卒業するように助言しています」

子どもの保護・子どもの参加

Plan's Goal プランの目指すゴール

「子どもたち、若者たちが、虐待、ネグレクト（無視）、搾取、暴力から護られる権利を、また市民として社会活動に参加する権利を手にする」

Child Protection and Child Participation

5万8,008人のパートナー団体のスタッフと、活動地域の住民21万4,747人に、子どもの保護に関するトレーニングを実施しました。

子ども若者の声

「私は、真剣に教育を受けなさい、と女の子みんなに言いたいです。あなたをだまして結婚させるようなことを、誰にもさせてはいけません。学校教育を終えてから、あなたがどうするかを決めればいいのです」（クリスティアナ　シエラレオネの17歳・女性）

スラムの子ども・ユースクラブを支援　インド　S

活動と成果
❶ 2,555の子ども・ユースクラブで、3万人以上の子ども・若者が地域開発活動に参加
❷ ハイデラバードの子どもクラブで720人の子どもにトレーニングを実施。また450人の子どもが勉強会に参加

子ども・若者がコミュニティの諸問題の改善・解決に活躍

水と衛生について学ぶ子どもクラブの子どもたち

プラン・インドでは2,555の子ども・ユースクラブが活動し、今年度は3万人以上の子ども・若者が参加しました。彼らはクラブで学んだことをもとに様々なコミュニティ活動に参加。たとえば出生登録の推進、閉鎖されていた幼児保育センターの再開支援、学校給食の質の改善、さらに盗まれた学校建設資材を取り戻すといった成果を挙げ、地域に貢献することができました。

子どもたち自身が学校の問題点を洗い出す

今年度、プランのハイデラバード現地事務所は、24の子どもクラブメンバー計720人（女の子350人、男の子370人）を対象に、「バンブー・シュート」と名づけられたプロジェクトのトレーニングを実施。1989年に国連総会で採択された「児童の権利に関する条約」（子どもの権利条約）の全条項の中から、特に42の条項に焦点を当て、子どもたち自身が学校に関わる問題点を洗い出し、問題分析系図を作成しました。

問題解決に向けて活動がスタート

問題の具体例としては、不衛生な衛生設備、質の低い学校給食、教室設備の不備、中途退学などが挙げられました。子どもたちによって洗い出された問題は、2015年度に学校運営委員会に引き継がれ、解決に向けた活動が始まりました。

プランはまた、子どもクラブのメンバー450人を対象に、勉強会を開催。そこでは早過ぎる結婚の防止、教室内での体罰の通報、衛生設備の監視やスポンサーへの手紙書きといったトピックが取り上げられました。

シャンカルさん（14歳）の声

3人の復学支援に成功して大きな達成感 これからも活動を続けていきたいです

復学を目指す女の子のための教育セッション

ハイデラバードの子どもクラブでリーダーを務める14歳の男の子、シャンカルさんは、昨年、プランのスタッフから「子どもの教育問題に取り組んでみては？」と提案されました。そこで子どもクラブのメンバーと話し合い、学校を中途退学したスラムの子ども3人（9年生2人、1年生1人）の復学支援を行うことにしました。

シャンカルさんたちはまず3人と友だちになり、「とにかく学校に来てみたら？　勉強を教わるのはいいことだし、友だちと一緒に登校するのは楽しいよ」と学校に通うメリットなどについて話しました。また、3人の保護者たちにも会い、子どもの復学に力を貸してくれるよう説得。保護者たちが学校を訪れて校長先生と相談すると、その後校長先生が3人と面談し、ついに復学が実現しました。3人は今では学校で仲間と楽しく過ごし、「学校にいる時間が1日の中で一番楽しい」と言っています。

今回の成功をうけてシャンカルさんは、「大人たちと話し合いながら、支援する人を選び、最終的に3人が復学するまですべての行程に関わることができて、今は達成感でいっぱいです」と満面の笑みを浮かべて語りました。

「でも、僕たちの活動はこれで終わりではありません。次は、コミュニティで廃品回収をしている子どもたちを、学校に入学させる活動をしたいです」。

早すぎる結婚の防止　中国　S

活動と成果
❶ 少数民族の子ども 344 人にトレーニングを行い、教育を継続するための奨学金を支給
❷ 188 世帯・474 人を対象に、早すぎる結婚の弊害などに関する意識啓発活動を実施

「早すぎる結婚防止」プロジェクトへの新たな取り組み

奨学金を受け取るための誓約書に署名する女の子と両親

中国の法律では男性は 22 歳、女性は 20 歳から結婚できます。しかし多くの少数民族が暮らす南西部の雲南省では、子どもたちをもっと若い年齢で結婚させる慣習が残っています。プランは少数民族の若者、特に女の子の早すぎる結婚を防止し、教育を受ける権利を強化するためのプロジェクトを推進しています。

条件付きで奨学金も支給

今年度、プランの「早すぎる結婚防止」のための試験的プロジェクトには、中途退学や早すぎる結婚の危機にさらされている少数民族の子ども 344 人が参加。ライフスキルやジェンダー平等などを学ぶトレーニングを受け、さらに中等教育を継続するための奨学金を受け取りました。奨学金授与の条件として保護者たちは、子どもが中等教育を修了するまで勉強を続けさせることを保障し、早すぎる結婚を強制しないという誓約書に署名します。また、同プロジェクトでは、婚姻法とその法規、子どもの権利、ジェンダー平等、早すぎる結婚の弊害などに関する意識啓発活動も行い、188 世帯の 474 人が参加しました。

参加者の声

リス族の女の子（18 歳）
チャオ さん

「私は小学生のとき、同じ村の男の子と婚約させられました。でも中学生のときにプランのトレーニングに参加して、10 代では絶対に結婚しないと心に誓いました。私はこれからも一生懸命勉強します。もし高校に進学できなくても、職業訓練校か専門学校に行くつもりです」

出生登録の推進　セネガル　S

活動と成果
❶ 母親委員会のメンバーの能力向上と組織力の強化を行い、備品や活動資金を支援
❷ 4つの保健所で 1,925人、母親委員会によって 1,987人の子どもの出生を登録

出生登録の促進に母親委員会のメンバーが活躍

出生登録を手伝うコミュニティの委員会のメンバーたち

セネガル政府は過去 10 年間、子どもの出生登録を国家的優先課題と位置づけてきました。プランも保健・教育の各機関と連携し、法的手続きや啓発活動など、出生登録を支援する様々な活動を行ってきました。ところが 2011 年後半に中部カオラックの活動地域で行われた調査で、1 万 7,114 人もの子どもが出生登録されていないことがわかりました。

全新生児の出生登録を目指す

プランは、活動地域内の各コミュニティで組織されている母親委員会と連携し、出生登録を推進する活動をスタートさせました。まず、母親委員会メンバーの能力向上と組織力の強化を図るとともに、出生登録に必要な文具・備品と活動資金を支援。母親委員会は、担当地域で生まれたすべての新生児が確実に出生登録されることを目指し、積極的に関与しています。たとえば両親による手続きが期待できない場合などは、コミュニティがそれを代行し、子どもの出生登録が完了するまで母親委員会のメンバーが見届けます。その結果、2013 年 1 月～2014 年 4 月の期間中、活動地域内にある 4 つの保健所で 1,925 人の出生登録が行われ、さらに、母親委員会によって 1,987 人の出生登録が行われました。

参加者の声

活動地域の市民登録官
ンゴウナ さん

「母親委員会が出生登録に関わる活動をスタートさせてから、登録される子どもたちの数は、毎月、前年よりも増加しています」

男子クラブの活動促進　エチオピア　S

活動と成果
❶ 38 人の男の子たちが男子クラブに参加し、女の子の人権を無視した慣習を止めさせる啓発活動を展開
❷ 男子クラブの働きかけで、女性性器切除の施術を行ってきた女性が施術中止

女の子への人権に反する慣習の廃止に向け、男の子が活躍

男子クラブの代表を務めるチャラさん

エチオピアの貧困家庭の子どもたちは、早すぎる結婚や女性性器切除、虐待・搾取、人身取引、児童労働などの人権に反する行為の被害を非常に受けやすい状況に置かれています。こうした子どもたちは、教育や子どもを保護するためのサービスもなかなか受けることができません。

意欲的に活動する男子クラブ

プランでは子どもたち、特に女の子の人権を無視した慣習を廃止するために、多方面にわたる取り組みを実施してきました。たとえばエチオピア南部諸民族州にあるディラモ小学校では、「全力で女の子たちの力になる」ことを目的とした男子クラブが結成され、38 人の男の子たちが参加しています。彼らはドラマ、教育娯楽番組、討論会などを通じて、コミュニティの人たちに女性性器切除と早すぎる結婚の根絶を働きかける活動を展開しています。また女子クラブと連携して、同世代の子どもたちへの啓発活動も行っています。最近では、長年、女性性器切除の施術を行ってきた女性に対して根気よく説得を続け、施術を止めてもらうことに成功しました。

参加者の声

男子クラブの顧問・教師
ランカモ さん

「男子クラブのメンバーは、女の子と女性の人権を無視した慣習の根絶に向けて大きな役割を果たしています。彼らは、自分の村落で密かに施術をされるかもしれない女の子にも注意を払っています。また、女子クラブの活動にも積極的に協力しています」

障がいのある子どもたちの支援体制作り　グアテマラ　M

活動と成果
❶ 保護者 332 人、障がいのある子ども 35人および障がいのない子ども 2,268人などを対象にトレーニングを実施
❷ 障がいのある子どもを支援する30のコミュニティ委員会を設置。また9カ所に「障がい児センター」の設置を準備

障がいのある子どもへの理解を促進し地域で支え合う

障がいのある子とない子が一緒に楽しくトレーニング中

グアテマラでは、約 700 万人の子どもに障がいがありますが、偏見や差別が根強いために地域社会から隔離され、適切なケアを受けられません。プランは東部活動地域で住民の能力強化や意識啓発などを通じ、支援体制を構築しています。

幅広いトレーニングを実施

今年度は地域全体で障がいのある子どもに対する理解を促進し、支援を強化するため、様々なレベルでトレーニングを実施。そのうちのひとつが、障がいのない子どもが障がいのある子どもを支えることを目指すトレーニングです。子どもたちは、グループワークやゲームを通じて理解を深め、自分たちで何ができるかを話し合いました。今年度は 12 人の障がいのある子どもが地域の学校に入学しましたが、周囲の理解もあってどの子どもも学校に馴染むことができています。またトレーニングを通じて、障がいのある子どもをもつ保護者の意識にも変化が見られます。これまではわが子について孤独に悩んできた保護者たちがトレーニングを通じて同じ立場の保護者と出会い、支え合えるようになりました。

参加者の声

視覚障がいのある兄弟の母親
マリア さん

「プランのトレーニングで同じような境遇のオフェリアさんと知り合い、私たちは一緒に子どもたちを外に連れ出すようになりました。息子たちには友だちもでき、今では学校に通うため、杖の使い方も学んでいます。彼らが学校で勉強し、将来自立できることを願っています」

保健・性と生殖に関する健康と権利

Plan's Goal プランの目指すゴール

「子どもたちが人生のスタート時期を健康に過ごせる権利を実現させる。子どもたち、若者が性と生殖に関する権利を理解し、安全で健康的な大人への成長を実現する」

Early Childhood Care and Development, Sexual and Reproductive Health

参加者の声

「男性クラブに参加して、男は妻やその身のまわりのことを放っておくのではなく、例えば出産前ケアサービスに連れて行くなどあらゆる面でサポートしなければいけない、ということを学びました」

（チェ・トーマス
カメルーンの男性クラブメンバー）

28万9,437人の専門家、ボランティア保健員にトレーニング、1万758の保健所・乳幼児保育所を建設・修繕、32カ国でHIVとエイズの予防とケアのプログラムを実施しました。

安全な出産と男性の参加促進　バングラデシュ　S

活動と成果
❶ ピア・エデュケーターと意識啓発に取り組む保護者682人を養成
❷ 安全な出産453件と、56人のケアを要する母親と10人の新生児をより設備の整った病院へ移送

保健医療サービス提供システムを地域の人々とともに強化

妻が食事の準備中に子どもの世話をする夫（左）

プラン・バングラデシュの保健プログラムは、地域の医療ニーズに対応し、地域住民が主体となった保健医療サービス提供システムの強化を目指しています。この1年は、「性と生殖に関する健康と権利」講習会、ビデオ上映会、家族計画セッション、“理想の母親”セッションなどを通して、子どもの生存と発育、健康、保健医療サービスや必要な情報へのアクセス、虐待や育児放棄の防止など、子どもの権利保護を強化するための活動を推進しました。

若者向けの講習会では性と生殖に関する情報を提供

若者を対象とした講習会では、若者ピア・エデュケーター※を養成することで、性と生殖に関する適切な情報を、より多くの若者に提供することができました。思春期の若者を持つ親を対象とした意識啓発に取り組む保護者グループも養成し、親が若者の性と生殖に関するニーズに責任を持って応えられるよう支援体制を整備しました。また、ジェンダーの視点も取り入れ、女性や女の子たちが、会合、イベントなどの場で女性の保健医療サービスへのアクセスに関する様々な問題を喚起するなど、重要な役割を果たしています。

医療従事者へのトレーニングも行い、医療の質を向上

地域保健員、伝統的助産師などの医療従事者との協力体制も万全です。プログラム活動を通して地域にかかわることで彼らの知識や技能が向上し、これを基に、協働するパートナーに適切なトレーニングを行うことで、プログラムの持続的な発展が可能となります。今後は自治体との連携を深め、保健医療サービスのさらなる質の向上を目指します。

※“学びの友”。子どもの権利保護に関する知識など、様々なことを学び、同世代の仲間たちに伝える役目を担う子どもや若者たちのこと。

アイヌルさんの声

安全な妊娠・出産講習会で学んだ知識を広めています

アイヌルさん夫婦と2人の子ども

トラック運転手のアイヌルさんは、妻の出産でぞっとする経験をしました。「妻のラジナの自宅分娩を知り合いの助産師に頼みました。しかし妻は大量出血して合併症を併発。ところが、助産師は対処の仕方を知らなかったのです」。アイヌルさんのケースは、バングラデシュでは珍しくありません。この苦い経験はアイヌルさんに強い恐怖心を植えつけ、その後、妻が第二子を望んでも二の足を踏んでいました。

第一子誕生から4年後、ラジナさんは、プランが主催する安全な妊娠・出産講習会に参加。夫にも参加を勧めました。最初の講習会に参加したアイヌルさんは、次のような感想を述べています。「安全な出産、最低4回の産前健診の重要性、妊産婦・新生児のケアなどについて学びました。いかに自分が何も知らなかったかを思い知らされました」。そして、ラジナさんは、保健所で訓練を受けた助産師の手で無事、第二子を出産。今、アイヌルさんは、学んだ知識と経験を地域で広めています。「安全な分娩のためにすべきことを男性たちに伝え、妻の負担を減らすため、家事、育児に協力するようアドバイスしています」

HIV 感染リスクの削減と医療サービスの促進　タイ　S

活動と成果
❶ 若者を対象とした包括的な性教育と地域医療機関の能力強化
❷ HIV 感染から守られた子ども 2万5,000 人、ケアや支援を受けた HIVとエイズとともに生きる子ども 3,000 人

性感染症が多い若者を対象に性教育と医療サービスを提供

ジャンさん（仮名）

国連合同エイズ計画（UNAIDS）によると、タイではエイズを含む性感染症の罹患者の 70%が若者。しかし、大半の若者はこれが自分の身にふりかかるとは思っていません。また、婚前交渉が一般的になってきている一方で、確実にコンドームを使用している若者は 20 ～ 30% に過ぎません。

性と生殖に関する知識のほか倫理面での教育も実施

プラン・タイは、学校やコミュニティの 10 代の若者全員を対象に、包括的な性教育を普及させてきました。性と生殖に関する医学的な知識や情報を提供するほか、社会文化や倫理面の教育も同時に行い、男女関係のあり方や性的行動とその結果生じる責任などを幅広く教育しています。また、特に移民者の多い地域で、HIV とエイズの影響を受けた若者を対象に質の高い保健医療サービスを提供するための支援も行っています。2014 年度は、北部タークの県の 3 郡 12 村で、ミャンマーから移住してきた 15 ～ 25 歳の若者を対象に、性と生殖に関する知識や情報を提供、ラジオ番組を通じて啓発を行いました。

参加者の声

チェンマイ県の中学生の女の子
ジャン さん（仮名）

ジャンさんは HIV に胎内感染。「プランの HIV とエイズプロジェクト活動に参加し、抗 HIV 薬による治療を受け始めてから私は健康を取り戻し、体重も増えました。性と生殖に関する健康や HIV 感染予防について学び、知識の普及に努めています」

保健所の建設　トーゴ　S

活動と成果
❶ サマイ・コミュニティで簡易保健所を建設。医薬品、医療器具を配備し、看護スタッフも配置。5 つの村の約 3,700 人が利用可能に
❷ 開設してから 9 か月間で 950人が受診。151人が妊婦健診を受け、40人が介助出産

伝統的な医療に頼る地域に保健所を建設。出産もより安全に

サマイ保健所で検診を受ける女の子

トーゴの活動地域の人々は、保健サービスの利用に関する問題に直面しています。地理的な問題のほかに、専門の保健員の不足、適切な設備の不足、少ない家庭収入が原因です。中央州の保健活動に関する 2013 年度の報告書によると、保健医療施設における 5 歳未満の子どものマラリアによる死亡率が 36% と高く、また死亡した子どもたちの 3 分の 1 以上が自宅で亡くなっていました。

保健所の建設とともに医療スタッフの充実もはかる

活動地域のひとつサマイ・コミュニティでは、こうした状況に対処するため、プランの支援で簡易保健所が建設され、ワクチン保管用の冷蔵庫、基本的な医薬品、医療器具が配備されました。看護スタッフも配置されました。また、病人のために安全な飲料水が確保できるよう井戸も建設。保健員が 24 時間体制でサービスを提供するために、近くに保健員用の住宅も建てられました。

今後は、保健所の管理運営に参加できるようコミュニティ関係者と専門の保健員の能力強化を図ります。

参加者の声

サマイ・コミュニティの男性（60 歳）
サマイの首長

「私は 10 歳の息子をお腹の病気で亡くしました。遠くのバゴの保健所に着いたときには息子の状態は完全に悪化していました。ここに保健所ができたので、妊婦も診察や出産のために保健所に行くことが容易になり、みな喜んでいます」

0 ～ 6 歳児の保健　ブラジル　S

活動と成果
❶ 567 人の親や保護者が 0 ～ 6 歳の子どもの発育に関するワークショップに参加
❷ 1,033 人の子どもたちが子どもの遊ぶ権利を奨励し、保障するための「プレイ・ウィーク」に参加

幸せな子ども時代を過ごすための「プレイ・ウイーク」

「プレイ・ウィーク」でクラウンと遊ぶ子どもたち

ブラジル北東部のマラニョン州にある、活動地域のコドとチンビラス、サン・ルイのコミュニティでは、人々は主に政府からの支給手当や自給自足の農業、露店や市場での商売、日雇い仕事などから収入を得ています。遊びが子どもの成長に欠かせないことは知られているものの、コミュニティの半数以上に、そのための場所やプログラムはありませんでした。

余暇の時間を提供することで子どもの権利について啓発を行う

そこで、プランはボールを敷きつめた囲みや滑り台などの遊具を備えた遊び場を提供する「プレイ・ウイーク」を実施。子どもたちが遊びやゲームを通じて五感や身体感覚を高める場を提供しました。そうした余暇の時間や場を提供することで、子どもたちの遊ぶ権利を奨励し、健全な成長を促しています。また、子どもの発育に関するワークショップには親や保護者 567 人が参加。0 ～ 6 歳児に必要な栄養や保健、子どもの遊ぶ権利についての意識を高めました。

参加者の声

マチンハのコミュニティ委員会のメンバー（46 歳）
フランシスカ さん

「『プレイ・ウィーク』を通して、子どもにとっての遊びの大切さがわかりました。私たちにとっても子どもたちにとっても素晴らしい日になりました。子どもたちは私たちに会うといつも、『次はいつか』とたずねてきます。このイベントは今後も実施すべきですし、私はそのつもりでいます！」

乳幼児の栄養改善　ガーナ　一般

活動と成果
❶ 北西部で 2,130 人への栄養教育と意識啓発、家庭菜園・畜産による 450 世帯へ食料生産支援、井戸を 4 基建設
❷ 保健ボランティア 104 人をトレーニング、6 カ月から 5 歳の乳幼児 1,459 人の栄養状態の調査

井戸建設から料理教室まで、多岐にわたる活動を展開

支給された種を植える女性

ガーナでは過去の干ばつによる食糧不足が深刻で、多くの子どもに貧血や発育不良などがみられます。小規模農業・畜産による食料生産支援をはじめ、地域の人々への栄養指導、安全な水の支給などを通じて、特に 2 歳未満児と母親の栄養状態の改善を目指しました。

地元の食材で補完栄養食を

子どもの栄養状態の改善のために、6 カ月までの完全母乳育児と 2 歳までの補完栄養食について、母親たちに説明することから始めました。地域の母親支援グループは、地元の食材を使った補完栄養食の作り方をデモンストレーション。さらにトレーニングを受けた保健ボランティアが子どもたちの体重測定を実施し、深刻な栄養不良状態の子どもを見つけ、集中的に栄養強化食を提供しました。

ポンプ式井戸の建設とともに衛生教育も実施

対象世帯には、ビタミンやミネラルを多く含む野菜や果物の種子を支給し、生産を支援。野菜の栽培や料理、畜産に欠かせない清潔な水を確保するために、手動ポンプ式井戸を建設し、石鹸による手洗いなど衛生教育も併せて行いました。

参加者の声

女性グループで活動する母親（38 歳）
ミナタ さん

「私はトマトやキュウリの種をもらい、育ています。畑でよい作物が収穫できると子どもたちに栄養がある食事を作れるし、余剰分は市場で売ることができてとても助かります」

家計の安定

Plan's Goal プランの目指すゴール

「子どもたち、若者たちが経済的に安定した生活を送る権利を知り、有意義な職を得るための支援を利用できるようにする」

13万5,762人にビジネスや職業技能のトレーニングを実施。
6万4,280の貯蓄グループを支援し、
114万2,720人がサービスを受けました。

家計の安定の推進　ブルキナファソ　S

活動と成果
❶ 3,152の貯蓄貸付グループが結成され、6万6,280人の女性が参加
❷ 11～19歳の女の子による貯蓄貸付グループが初めて結成され、17人が活動中

女の子の貯蓄貸付グループが啓発の場に

女の子の貯蓄貸付グループの集会風景

ブルキナファソの活動地域では、女性たちの貯蓄貸付グループの形成と支援に力を入れています。その目的は貯蓄・貸付・社会保険といった金融サービスへのアクセスを向上させ、家庭や地域の経済・社会福祉を改善することです。現在までに3,152の貯蓄貸付グループが結成され、計6万6,280人が参加しています。

女の子のグループが活動開始

今年度、東部クリテンガのテンソブンテンガ村で、11～19歳の女の子17人で構成される貯蓄貸付グループが初めて結成されました。彼女たちは毎週木曜日の午後に集会を開き、親からもらった小遣いの一部を貯めて持ち寄ります。学校に通っていない子どもたちは、小規模な事業から得た利益の一部を持参します。その後5カ月の間に、2人のメンバーがグループ貯蓄から貸付を受け、自分の小規模事業を強化することができました。一方、学校に通う女の子たちは、グループ貯蓄を教育資金として活用する予定です。貯蓄貸付グループは、女の子たちが強い連帯責任と結束力を学ぶ啓発の場としても大いに役立っています。

参加者の声

貸付を利用したグループメンバー
ジャミラさん

「私は貯蓄貸付グループから、6,000 CFAフラン（約1,300円）借りました。おかげで炊いたご飯を週に3回売り、毎回2,000 CFAフランの利益を得ることができます。グループに所属していると簡単に貯金できるし、弟や妹たちにときどきお小遣いを渡すこともできます」

若者の経済的自立支援　インドネシア　S

活動と成果
❶ 18～24歳の若者1,235人が生計向上プログラムに参加し、そのうち約500人が安定した仕事に就職
❷ 200人の若者を対象に小規模事業を起業するための訓練を実施し、約70人がビジネスの立ち上げに成功

職業訓練で若者の経済的自立を支援

就職した会社で接客するアニスさん

インドネシアでは、労働市場における正規雇用枠の伸びが、新たに就職を希望する人口の伸びに追いつかないため、失業状態の若者が増えて大きな社会問題になっています。プランはこの問題に取り組むため、包括的な生計向上プログラムを通じて専門的な職業訓練の機会を提供し、若者の経済的自立を支援しています。

若者の就職と起業に成果が

今年度は、中部ジャワ州のレンバン県で実施された生計向上プログラムに1,235人の若者（18～24歳）が参加。この中から約500人が、安定した収入の仕事に就くことができました。またこのプログラムでは、200人の若者を対象に小規模事業の起業訓練も行い、これまでに約70人が自分のビジネスを立ち上げることに成功しています。その中の1人であるマースンさんは、以前、小さな財布製造会社で働いていましたが、自分の会社を持つのが夢でした。起業訓練を受け、事業計画作りについて学んだ彼は、その後、財布を製造する会社を立ち上げ、9人の従業員とともに自宅の工房でハンドメイドのサメ革財布を作っています。

参加者の声

IT関係の会社に就職（22歳）
アニスさん

「プランのプログラムでライフスキルや会社採用申込書の書き方を教わったとき、とてもワクワクしました。現在はIT関係会社の顧客サービス部門で働いていますが、お金を貯めて将来は起業し、携帯電話のアクセサリー・ショップをもちたいと思っています」

女の子の起業支援　ペルー　S

活動と成果
❶ 1,000人の若者たちが起業家養成プロジェクトに参加
❷ プロジェクト参加者の一部が自らビジネスを立ち上げ

起業家養成プロジェクトで女性が活躍

現在は美容院を営むプロジェクト参加者のマーゴットさん

2011年の調査によると、北部のピウラでは15歳以上の女性の平均就学年数は9.2年でした。つまり、ほとんどの女性が日本の高校にあたる教育を終えていないのです。十分な教育を受けていないと、雇用機会が大幅に狭まり、貧困から抜け出せず、経済的な自立も困難になりがちです。

若い女性たちに起業支援を実施

プランは、教育が女性とその家族の生活に大きな変化をもたらすと考え、女性の能力強化を目指して活動しています。そのひとつが、学生や学校に通っていない若者たちを対象とした起業家養成プロジェクトです。これは、事業を立ち上げ、運営していくために必要な技能や考え方、姿勢、行動力、忍耐力などを若者たちに身につけてもらうことを目的としています。これまでピウラでは、1,000人の若者がこのプロジェクトに参加していますが、その37%が男性、63%が女性です。また参加している女性のうち、80%が未婚者もしくは未婚の母です。最近では実際に事業を立ち上げる女性も出始めています。

参加者の声

4人の子どもの母親（30歳）
マーゴットさん

「私の住む地区には、訓練を受けた理容師がいなかったので、美容業を学ぶことにしました。今は自分の美容院を経営して、子どもたちを学校へ通わせることもできます。5年後にはもっと立派な美容室にして、できれば他の女性たちにも仕事の機会を提供したいです」

水と衛生

Plan's Goal プランの目指すゴール

「子どもたち、若者たちが安全な飲料水と
基本的な衛生環境を得て、
健康で幸福な生活を送る権利を手に入れる」

83万5,207世帯が衛生設備を改善。
4,122の給水設備を
建設・修繕しました。

Water and Sanitation

安全な水の確保　ミャンマー　一般

活動と成果
❶ 井戸1基の掘削、および学校1校への給水設備の設置
❷ 村人や教師4人・生徒60人への衛生トレーニング

村人による主体的管理で安全な水を確保

子どもたちが井戸や衛生知識について勉強中

中央乾燥地帯に位置するクン・パ・ラー村では、降雨は5～10月の雨季に集中し、11月以降の乾季は水不足が深刻です。乾季の間、人々は数キロ離れた井戸から水を運ばなければなりません。水汲みは子どもと女性の仕事とされ、危険を伴う重労働を強いられます。また水に起因する下痢や赤痢も蔓延しています。

井戸の利用環境作りを重視

地質調査によって村から少し離れた地点で水源が見つかったため、そこに井戸を掘り、村の中心地と学校の2カ所に貯水槽を建設してパイプでつなぎました。これにより130世帯、約650人の住人に対して十分な量の水を供給できるようになりました。プロジェクトでは給水設備を設置するにあたり、持続的な利用環境を作ることを重視して、10人の住民からなる井戸管理委員会を設立。彼らに井戸の運営管理のトレーニングを実施しました。また衛生に関する意識啓発のため、村人や学校の生徒に対して衛生トレーニングも行いました。今後も、住民たち自身による持続的な井戸の管理が促進されることが期待されています。

参加者の声

クン・パ・ラー村の村長
ウー・ウィン マウン さん

「井戸の完成を待ちわびていました。以前は隣村まで往復30分かけて水を買いに行っていて、とても大変でした。でも今では、十分な量の水が簡単に手に入るようになり、時間が節約でき、仕事にも集中できます。日本の支援者のみなさんに本当に感謝しています」

屋外排泄ゼロの推進　ジンバブエ　S

活動と成果
❶ 衛生行動委員会と衛生行動グループを設立し、30の村で衛生促進教育を実施
❷ ルベンゴ村では1年をかけて、全38世帯にトイレが設置される予定

屋外排泄をなくすために村人自身が衛生教育を行う

トイレ付近には手洗い場も建設中

南部チレジ活動地域では、衛生設備の普及率が低いことが課題です。たとえばムウエンジ地区では77%、地域全体でも42%の住民が屋外で排泄しており、人々は健康上のリスクにさらされています。これを軽減するため、プランは協力団体と連携して「コミュニティ主導型総合衛生管理」を展開しています。

積極的に動き出す村も出現

プロジェクトではまず、衛生活動委員会と衛生活動グループを設立。メンバーたちが村々を巡回し、衛生促進教育を行っています。対象となる30の村のうち、ルベンゴ村では特に大きな反応がありました。以前は95%の村民が屋外で排泄していましたが、村の会議で1年の間に38世帯すべてにトイレを設置することを決定。貧しい家庭に対しては、トイレ建設資金の貯蓄貸付サービスも導入されました。またトイレを使うことや、トイレ後と食事の前後に手を洗うことの大切さも理解されるようになりました。さらに女性や女の子たちは、トイレができたおかげで性的・身体的暴力を受ける危険が少なくなったと語っています。

参加者の声

衛生活動委員会の委員長
ラザルス さん

「村民たちは、以前は子どもがかかりやすい下痢性疾患を呪術のせいだと考えていました。でも今では、屋外排泄が病気を発生させる原因だと知っています。病気の治療費がトイレの建設費よりもはるかに高いと認識しています。もう茂みで排泄物に出くわすこともありませんよ」

デング熱の予防　エルサルバドル　S

活動と成果
❶ サンディエゴ・コミュニティでザンボの稚魚5,000匹以上を繁殖させ、290世帯に配布
❷ 近隣コミュニティの2つの地域保健所に稚魚を供給、また水産開発局と連携し、2万匹以上の稚魚を繁殖させられる設備を他の自治体や県に設置

自然の力を活用してデング熱を撲滅

稚魚の飼い方などについて説明する
“第一発見者”のファレスさん

エルサルバドルでは、デング熱が疑われる患者数が2014年5月に1万6,397人と、過去数年を上回るペースで推移しています。患者のうち80%が乳幼児、子ども、若者です。一方チクングニア熱が疑われる患者数も、6月に6県で1,512人報告されていますが、この病気にかかると妊婦は流産の危険性が高まり、母子感染した新生児にも様々な悪影響を及ぼします。

若者の発見が全国に広がる

これらは、ネッタイシマカによって媒介される感染症です。あるとき、西部ラ・リベルタ県で地域保健委員会に参加する若者が、ザンボという魚の稚魚が蚊の幼虫を食べるのを目撃したのをきっかけに、感染症の撲滅を目指すプロジェクトがスタートしました。サンディエゴ・コミュニティでは、若者たちが、290世帯に稚魚を配布し飼育方法などを伝授。人体に有害な駆除剤を使うことなくデング熱患者ゼロを達成しました。プロジェクトは今や全国に広がりつつあり、大きな成果を挙げることが期待されています。

参加者の声

青年評議会のメンバー
ホテリン さん

「このプロジェクトは、家の貯水槽から蚊の幼虫を駆除することでデング熱などの病気を減少させ、地域に貢献できる重要な取り組みです。私たちは稚魚の捕獲や供給など、プロジェクトのすべてに関わっています」

緊急支援

Plan's Goal プランの目指すゴール

「子どもたち、若者たちが、災害などからの回復力に富む安全な地域で成長し、緊急事態においては保護され、支援される権利を尊重される」

台風ハイエン 緊急・復興支援　フィリピン　緊

活動と成果
❶ 食糧 39万5,000人分を提供、仮設住宅キット 13万8,000 個提供、給水キット9万5,000 個支給
❷「子どもにやさしいスペース」101 カ所開設、子ども 2 万人に遊び、学習、心のケアのための支援、通学キット 6,100 個支給

緊急の物資を届けつつ、子どもの保護と心のケアに注力

「通学キット」で学校に通う子どもたち

2013 年 11 月 8 日にフィリピン台風ハイエン（地元ではヨランダ）が上陸。フィリピンの 9 地域で、500 万人の子どもを含む 1,500 万人が被災し、家を失った人は約 400 万人、亡くなった人は 6,000 人にのぼりました。

子どもの心のケア、教育の再開を優先的に支援

プラン・フィリピンの緊急支援チームは、被災地での被害状況の把握と子どもの保護を最優先に支援。心のケアのため「子どもにやさしいスペース」を 101 カ所開設し、1 万 2,580 人の子どもたちが心理社会的ケアを受けることができました。また「国境なきピエロ団」と協力して、ピエロによるパフォーマンスを届けました。

多くの学校が損壊したり、避難所になって学校として機能できないことから、幼稚園や小学校として利用できる仮設の教室を建て、備品や教材を支給。子どもたちに通学かばんや文房具などの「通学キット」を配布しました。また、学校を拠点にした衛生指導も行いました。

プランは 5 カ年の復興支援計画をもとに、これからも支援活動を続けていきます。

被災者の声

レイテ島に住む女の子（11 歳）
クイーンさん

「『子どもにやさしいスペース』で絵本を読んでもらったり、みんなで遊んでいると、不安や恐怖を忘れることができます。勉強だけではなくて、人と仲良くする方法や、病気にならないように手洗いをすることや、歯磨きの方法も学ぶことができます」

洪水緊急・復興支援　インド　緊

活動と成果
❶ 被災者の避難誘導と離散家族の再会支援、被害を受けた子どもたち 105人に対する心理ケア
❷ 1万 500人に炊き出し支援、506世帯に生活物資の配布、49世帯に食糧の配布

被災直後から炊き出しや離散家族の再会を支援

被災地域で行われた炊き出しの様子

2013 年 6 月、ヒマラヤ巡礼で有名なインド北部ウッタラカンド州は、80 年に 1 度という記録的な豪雨に見舞われ、「ヒマラヤの津波」ともよばれる大規模な鉄砲水が発生。周辺住民や巡礼者などの死亡者／行方不明者数は 5,400 人、土砂崩れによる集落の孤立などで 4,200 村以上が影響を受けました。

現地をよく知るコミュニティボランティアが活躍

災害発生直後から現地行政などと連携して、濁流や土砂崩れに巻き込まれた人の捜索や、離れ離れになった家族の再会支援を実施。また、コミュニティボランティアが土地勘を生かして、集落に取り残された巡礼者を避難所や安全な場所へ誘導する支援も行いました。

その後も、避難所内外にて災害に巻き込まれた巡礼者や近隣住民への炊き出しや、孤立集落や家屋被害を受けた世帯に対するシェルターキット（ビニールシート、毛布、ソーラーライトなど）、衛生キット（タオル、生理用品、石鹸など）、調理キット（鍋や食器など）や食糧の配布を行いました。

被災者の声

バンコリ村
ギータさん

「この災害で私の家屋も被害がでました。プランが届けてくれた生活物資は、被災前の生活を取り戻すのにとても役に立ちました。ありがとうございました」

南スーダン難民支援　ウガンダ　補

活動と成果
❶ 子どもにやさしいスペース 4カ所を設置、子ども保護委員会の設立支援、および 84 人に保護委員向け研修
❷ 井戸 2基設置、および 30人の水管理委員会設立、26 世帯に世帯トイレと水浴び場の設置

難民となった子どもたちが安全に暮らせる環境づくり

難民居住区で遊ぶ子どもたち

2011 年に独立した南スーダン共和国は、2013 年 12 月に武力衝突が激化。約130万人が国内避難民、約 45 万人が周辺国で難民となっています（2014 年 9 月時点）。ウガンダは 12 万人以上の難民を受け入れましたが、北西部アジュマニ県の新しい難民居住区には十分な給水設備や教育施設がありませんでした。

学習できるスペースをつくり子ども保護委員会の設立を支援

プランは、難民居住区内に「子どもにやさしいスペース」を設置。幼稚園の機能も併せもち、勉強の機会も提供しています。難民のリーダーたち（長老、宗教リーダー、女性、若者）で構成される子ども保護委員会の設立も支援。3 日間の研修と月 1 回の会合を通じて、保護委員の能力強化を行いました。

また子どもダイアログと呼ばれる研修会を開き、難民居住区での生活や悩みなどを子どもたちだけで話し合う機会も提供。さらに、子どもたちの悩みや問題を他の NGO や国際機関と共有し、継続的に対応できる体制づくりも行っています。

※本プロジェクトはジャパン・プラットフォームとの協働で実施されました。

参加者の声

7人の子どもを養育している
クリスティンさん

クリスティンさんは南スーダンから自分の子ども4人と、両親を失った子ども3人を抱えて逃れてきました。「プランのおかげで無事に仮説住居を設置することが出来ました。子どもたちは近隣の学校に通っています」

今年も国内で連携の輪が広まりました！

学校で、地域で、そして支援者の会と、Because I am a Girl（BIAAG）キャンペーンを通して、
プランとの連携が多方面に、更なる広がりをもった一年でした。

Raise Your Hand をする世田谷総合高校の皆さん

事務局のある世田谷区の子どもたちと協働
with 世田谷ボランティア協会

ボランティア活動推進機関である社会福祉法人 世田谷ボランティア協会の仲介で、プラン・ジャパンは都立世田谷総合高校で2013年９月から11月までに２時間×６回、映像やワークショップを用いた授業を行いました。授業に参加した40人は、全校に呼びかけて女の子の教育の大切さを訴える Raise Your Hand を実施。また、同校や近隣の二子玉川小学校に書き損じはがきの収集を働きかけ、プラン・ジャパンへの寄付につなげました。

また、2013年８月、同協会の夏休みボランティア体験プログラム「ナツボラ」に参加した高校生８人が、プラン・ジャパンで活動しました。高校生たちは、事務局でのボランティア体験のほか、小・中学生を対象としたワークショップの運営をお手伝いするなど大活躍しました。

「パキスタンの女の子の識字率は?」授業の導入はクイズから

グループをまわって生徒たちの積極的な参加を促す（撮影／ウシオダキョウコ）

連続講座の第一期生が高校で授業！
with プラン・アカデミー

Because I am a Girl キャンペーンやジェンダー平等について理解を深め、行動を起こすアクターを養成する連続講座、プラン・アカデミー。第一期は、2013年４月から12月にわたって計８回の講座が行われました。その卒業生が、さっそく活動を開始！　2014年２月下旬、埼玉県の春日部女子高校で特別授業を行い、世界の女の子の状況や女子教育の重要性などを伝えました。他にも、アニメーション動画を制作し YouTube で公開する、小冊子を制作・販売に取り組むなど、プランの講座から羽ばたいた卒業生が、各方面で Because I am a Girl キャンペーンのメッセージを広く世に伝える活動に乗り出しています。

プラン・フレンズは、子どもたちの「気づき」を促します

夏休みイベントで、途上国について日本の子どもに伝える
with プラン・フレンズ

2013年８月３日、東京・三軒茶屋のキャロットタワーにて「途上国について学ぼう～夏休み小・中学生ボランティア企画」が開催されました。当日は、開発教育ボランティアであるプラン・フレンズのメンバー18人が、途上国の子どもたちの現実と理想が描かれた「夢のこいのぼり」を使ったワークショップを実施。ケニアやベトナムの子どもたちが描いた「夢のこいのぼり」から、参加した小・中学生50人が各国の子どもたちが直面する問題を読み解き、その解決のために自分にできることを考えるためのサポート役を担いました。

講演するギラード氏

オーストラリア元首相の来日講演
with 教育協力 NGO ネットワーク（JNNE）

2014年６月、プラン・ジャパンは『教育協力における日本の役割を考える議員勉強会』を５回連続で開催しました。これは、教育の大切さを世界中の人々が同時期に考えるイベント、「世界一大きな授業」を主催する教育協力 NGO ネットワークとの共催。第２回目には元オーストラリア首相で、「教育のためのグローバル・パートナーシップ」理事長のジュリア・ギラード氏が登場し、「首相時代に ODA を増やし、教育分野への支援を強化した。世界の平和や繁栄は、世界の子どもたちの教育があってこそ成り立つ」というコメントを述べました。国会議員からも多数の質問が寄せられ、日本の ODA が果たす役割について活発な意見交換が行われました。

25ans 上映会でのトークショー

映画「Girl Rising」の上映会が有志によって実現！
with 支援者の会、雑誌「25ans」ほか

『Girl Rising ～私が決める、私の未来～』（7ページ参照）の上映会が、全国各地の有志の手によって行われました。プラン・ジャパンの支援者からなる「プラン・京都」「プラン・札幌の会」「多摩ＳＰ会」「プラン岡山の会」「プラン名古屋の会」は、地元のネットワークを活用して上映会を開催。また、雑誌の25ans は定期購読者の方30人を対象にした上映会を、同誌の人気ライター吉野ユリ子さんとプラン・ジャパンの職員とのトークショーとあわせ、都内のホテルで行いました。そのほか、大学や企業もあわせると、有志による上映会は2013年12月から2014年６月までの間に計17回行われ、2,800人以上の方に参加いただくことができました。

会場となったエル・パーク仙台での展示

「災害と女の子」についてともに発信
with（公財）せんだい市男女共同参画財団 エル･パーク仙台

東日本大震災後仙台市で約１年３カ月にわたり活動をしたプラン・ジャパンは、活動終了後も地域の行政や団体と継続的に情報交換を行い、「心のケア」に関する広報活動を行っています。プランが活動地域で進める防災、減災への取り組みは、日本の被災地にも通じうるものです。2014年３月３日～16日、仙台市男女共同参画では、企画展示「女の子と災害」を実施。「災害時、もっとも影響を受けるのは思春期の女の子」と訴えてきたプラン・ジャパンは、この企画展にてパネル展示をし、そのメッセージを来場者に伝えました。

多様化する企業との連携

プラン・ジャパンが行う途上国支援について、理解を深め支援につなげるために、NGOと企業の連携に関する企業向けセミナーを、宣伝会議と共同で初めて開催しました。企業の社会的責任の高まりと消費者の社会貢献意識の高まりを背景に、本業と支援内容をつなげ、継続的に社会の課題に取り組む企業が増えています。寄付つき商品を通じた支援をテーマにセミナーを実施したところ、定員の８倍にあたる申込があるなど大きな反響がありました。この一年プラン・ジャパンと企業が進めた連携を、いくつかご紹介します。

※ BIAAG：Because I am a Girl の略称

多くの企業が参加したセミナー

株式会社ポーラ

笑顔のための美容液「サインズショット」の売り上げの一部を寄付

創業 85 周年を迎えた株式会社ポーラは、初めてのポーラレディが誕生して以来長きにわたり、女性人材活用の先駆者として女性たちの社会進出を後押ししてきました。ポーラの「AAA（アンチエイジングアライアンス）」というCSR 活動では、社会貢献活動や文化支援を通して、輝く女性の生き方を応援しています。さらに、表情に伴うしわをケアする、笑顔のための美容液、サインズショットの発売と同時に、世界中に笑顔を広げるための「スマイル・レボリューション」活動も始動。これらの活動の一環として、サインズショット 2014 年 1 年間の売り上げで Girl's Project への支援を開始しました。既にご寄付の一部は、パキスタンの女の子のための教育プロジェクトに役立てられました。同社の BIAAG キャンペーンへの支援は、全国に約 15 万人いるポーラレディの皆さまからも大きな反響を得て、支援の輪がさらに広がることが期待されます。

笑顔のための美容液
サインズショット

株式会社ユニクロ

子どもたちに夢と希望を提供するプロジェクト支援

ユニクロは、子どもたちの未来を拓くという趣旨で、プロテニスプレイヤーのノバク・ジョコビッチ選手と共に「Clothes for Smiles」というプロジェクトを共同発案しました。この活動資金を活用するプロジェクトを世界中から公募。プラン・ジャパンが提案したサッカーを通じた途上国の女の子のエンパワーメントに着目し、「女子サッカープロジェクト」を支援しています。プロジェクトは 2013 年 9 月からバングラデシュ、ジンバブエ、ガーナの 3 カ国で始動、今年度には同社の担当者が試合会場の熱気や意識啓発活動の様子を視察、女の子たちとも直接話しをしました。これらは同社の社会貢献活動として店頭やウェブサイトでも広く紹介されています。3 年間のプロジェクトを通じて、サッカーにより女の子たちやコミュニティの人々の意識が変わり、女の子たちが自分たちの未来を拓いていけるよう、応援していきます。

ガーナの女子サッカーチーム

シチズン時計株式会社

レディスブランド「CITIZEN xC（クロスシー）」を通じた広報活動と売上げによる支援

シチズン時計では、シチズングループの企業理念である " 市民に愛され市民に貢献する " のもと、事業活動を通じた社会課題の解決を目指しています。数ある貧困問題への支援の中で、次世代を生む女性への支援が世界や人の課題解決につながるという考え方がシチズンの目指す方向性に一致していたため、BIAAG キャンペーンに賛同。2013 年 11 月よりレディスブランド「CITIZEN　xC（クロスシー）」の店頭販売やウェブサイトを通じて同キャンペーンを紹介しています。こうした広報活動を通じてお客さま自身の消費活動が世界の誰かのためになることや、途上国の現実を知る「きっかけ」作りをサポートするとともに、さらに売上げの一部で「パキスタンにおける女の子のための教育プロジェクト」と「マリにおける女の子の早すぎる結婚対策プロジェクト」を支援くださっています。

Because I am a Girl キャンペーンを紹介するウェブページ

MFS インベストメント・マネジメント株式会社

企業として プラン・スポンサーシップを支援

1924 年、米国マサチューセッツ州、ボストンでの創業以来、資産運用会社としてグローバルなネットワークを持つ MFS は長期的な視野での社会貢献活動を重視。特にプラン・スポンサーシップの掲げる「持続可能な地域開発」の理念と合致するため、日本法人においては 2013 年 12 月より、プラン・スポンサーシップをご支援くださっています。現在、アジア、アフリカ、中南米 9 カ国 10 人のチャイルドと交流する中、社内でグローバル・サービス・ＤＡＹを設け手紙書きイベントを開催するなど、多くの社員が参加して活動しています。

手紙書きイベントに参加する社員のみなさん

国際ガールズ・デーにイベントで連携

株式会社エフエム東京

“Charity RUN for Girls” 開催

株式会社エフエム東京では、同局のコンセプト「Human Conscious ～生命（いのち）を愛し、つながる心～」のもと、2009 年より年間を通して様々な形でご支援いただいています。2013年は、「Charity RUN for Girls with TOKYO FM」リスナーランイベントを開催。10 月の 1 カ月間をキャンペーン期間として、ランナーの方々が走った距離分が BIAAG キャンペーンへの寄付となるドネーションプログラムを実施。国際ガールズ・デー当日の 10 月 11 日には、途上国における女の子の現状を広く知っていただくことを目的とした、トークショー、参加ランナーとともにキャンペーンカラーのピンクの T シャツを着て皇居を 1 周するイベントが開催されました。

トークイベント後、全員で記念撮影

株式会社エンベックス

ネパールにおける校舎建設支援

IT 分野における人材育成やエンジニアリングサービスを主な事業としている株式会社エンベックス。プラン・ジャパンの広告の中にあった「誰かの人生に、可能性を贈る。そんなワクワクすることあるでしょうか。」というメッセージに深く共感し、ネパールにおける教育支援に寄付してくださいました。この支援により、山岳地方の少数民族の子どもたちが通う学校に、校舎 1 棟と障がい児対応男女別トイレが建設されました。完成した施設の壁面には、同社からのメッセージ「Be Happy!」が記された記念プレートが掲げられています。

支援で建設された校舎

株式会社 JUN（ジュン）

ミリオンホット ® 商品の購入者にキャンペーン缶バッジをプレゼント

20 代の働く女性向けファッションブランド ViS が、2013 年 9 月から販売したミリオンホット ® を使ったニットの売上げの一部をご寄付くださいました。この取組みは、ファッション雑誌の他、ViS ブランド全 76 店舗に設置されたフライヤーでも告知されました。さらに、店頭 POP では、“心もからだもあたたまる” ニット商品としてアピールし、購入された方には、BIAAG キャンペーンの缶バッジをプレゼントすることでキャンペーンの認知拡大にご協力いただきました。

* ミリオンホット ®：　あたたかく吸放湿性に優れた混紡糸。

キャンペーンロゴ入りの POP が商品とともに大々的に掲示されました

国際ガールズ・デーにイベントで連携

株式会社ヴィーガニー / R Jewels Japan 株式会社 / 株式会社ヴォークス・トレーディング

エシカルブランドによるイベント開催

国際ガールズ・デー当日の10月11日、エシカルブランド VEGANIE（ヴィーガニー）と R ethical Jewelry（アール・エシカルジュエリー）の呼びかけで、ヴォークス・トレーディングをはじめとする BIAAG キャンペーンに賛同する各社が集結し、途上国の女の子たちの問題を、日本の女性たちに理解いただくためのイベントが開催されました。イベントの前半は各社商品の展示販売、ワークショップが行われ、当日の販売売上の 10%を寄付いただきました。後半は食事を楽しみながら聞けるトークセッションを行い、来場者に、支援を受けた現地の女の子たちの変化と成長と、支援する側の日本のエシカルブランドを主宰して活動する女性たちの、パワフルな今を、伝えてくださいました。

会場に設置されたプラン・ジャパンの紹介コーナー

活動国の基本統計一覧 2014

		活動開始年	チャイルド数	日本のスポンサーを持つチャイルド数	プロジェクト数	職員数	5歳未満児死亡率（1,000人あたり）	低出生体重児出生率（%）	平均余命（歳）	小学校に入学した生徒が最終学年に残る率（%）	成人の総識字率（%）	改善された水源を利用する人の比率（%）	1人あたりのGNI（米ドル）	1日1.25米ドル未満で暮らす人の比率（%）
アジア	インド	1979	63,988	1,948	248	171	56	28	66	-	63	92	1,530	33
	インドネシア	1969	45,578	1,023	35	102	31	9	71	88	93	84	3,240	16
	カンボジア	2002	22,755	1,104	82	182	40	11	72	61	74	67	880	19
	スリランカ	1981	20,227	852	143	148	10	17	74	97	91	93	2,920	4
	タイ	1981	10,398	407	50	55	13	7	74	-	94	96	5,210	0
	中国	1995	29,563	888	53	102	14	3	75	99	95	92	5,740	12
	ネパール	1978	39,726	2,061	195	248	42	18	68	-	57	88	700	25
	パキスタン	1997	23,324	1,106	79	210	86	32	66	52	55	91	1,260	21
	バングラデシュ	1994	32,181	2,143	24	292	41	22	70	66	58	83	840	43
	東ティモール	2001	11,361	59	10	97	57	12	67	84	58	69	3,670	-
	フィリピン	1961	41,102	1,543	326	363	30	21	69	76	95	92	2,470	18
	ベトナム	1993（再開）	35,754	2,566	168	253	23	5	76	94	93	96	1,400	17
	ミャンマー	2012	0	0	26	39	52	9	65	75	93	84	1,035以下	-
	ラオス	2006	10,093	343	133	115	72	15	68	68	73	70	1,260	34
中南米	エクアドル	1962	46,812	1,272	166	202	23	8	76	92	92	92	5,190	5
	エルサルバドル	1976	34,927	935	117	194	16	9	72	84	84	90	3,580	9
	グアテマラ	1978	36,663	943	124	227	32	11	72	68	76	94	3,120	14
	コロンビア	1962	25,000	834	44	250	18	6	74	87	94	93	6,990	8
	ドミニカ共和国	1987	24,538	584	95	151	27	11	73	75	90	82	5,470	2
	ニカラグア	1994	28,583	684	62	172	24	8	75	-	78	85	1,650	12
	ハイチ	1973	35,040	184	85	173	76	23	63	-	49	64	760	62
	パラグアイ	1994	23,537	646	93	84	22	6	72	83	94	-	3,290	7
	ブラジル	1997	15,710	209	40	106	14	8	74	-	90	97	11,630	6
	ペルー	1994	24,795	719	87	134	18	8	75	82	90	85	5,880	5
	ボリビア	1969	43,369	1,148	287	213	41	6	67	85	91	88	2,220	16
	ホンジュラス	1977	35,010	1,048	76	167	23	10	74	75	85	89	2,070	18
アフリカ	ウガンダ	1992	38,537	1,037	223	292	69	12	59	25	73	75	440	38
	エジプト	1981	35,747	1,391	178	203	21	13	71	99	74	99	3,000	2
	エチオピア	1995	29,000	622	43	240	68	20	63	41	39	49	410	31
	ガーナ	1992	28,608	669	73	118	72	11	61	72	71	86	1,550	29
	カメルーン	1996	26,128	552	80	186	95	11	55	57	71	74	1,170	10
	ギニア	1989	31,766	832	300	120	101	12	56	59	25	74	460	43
	ギニアビサウ	1995	19,971	255	72	100	129	11	54	-	55	72	550	49
	ケニア	1982	68,162	1,939	155	289	73	8	61	-	72	61	840	43
	ザンビア	1996	21,073	388	40	119	89	11	57	53	61	64	1,350	75
	シエラレオネ	1976	12,006	177	135	151	182	11	45	-	43	57	580	52
	ジンバブエ	1986	42,108	1,218	77	282	90	11	58	-	84	80	680	-
	スーダン	1977	32,055	438	6	179	73	-	62	-	-	55	1,450	20
	セネガル	1982	34,821	1,411	158	129	60	19	63	59	50	73	1,040	30
	タンザニア	1991	31,005	785	33	179	54	8	61	81	68	53	570	68
	トーゴ	1988	24,684	830	135	141	96	11	56	52	60	59	500	28
	ニジェール	1998	21,170	281	70	120	114	27	58	69	29	50	370	44
	ブルキナファソ	1976	41,934	1,551	36	195	102	14	56	69	29	80	670	45
	ベナン	1994	24,498	296	102	138	90	15	59	56	29	76	750	47
	マラウィ	1994	25,658	594	84	183	71	14	55	51	61	84	320	62
	マリ	1974	28,062	791	80	219	128	18	55	75	33	65	660	50
	南スーダン	2006（独立前から該当地域にて）	6,500	28	18	130	104	-	55	-	-	57	650	-
	モザンビーク	2007	9,700	71	29	68	90	17	50	31	51	47	510	60
	リベリア	2006（再開）	12,250	0	14	78	75	14	60	68	43	74	370	84
	ルワンダ	2007	12,109	77	54	99	55	7	64	37	66	69	560	63
	日本	1983	-	-	-	-	3	8	83	100	-	100	47,870	-

※プランに関するデータは 2014 年6月 30 日現在のものです。それ以外のデータは、「ユニセフ 世界子供白書 2014」からの出典となります

2014年度 公益財団法人プラン・ジャパン 決算報告

2013 年 7 月 1 日～2014 年 6 月 30 日

この決算報告は、あらた監査法人（PricewaterhouseCoopers Aarata）および本財団監事による監査を受け、理事会並びに評議員会の承認を経て内閣府へ提出した財務諸表等※の抜粋です。
皆様のご支援により、収入 32 億 7,070 万 7,327 円を計上し、プログラム実施費等として、海外における開発支援プロジェクトに 24 億 1,651 万 4,070 円（当期収入比：73.9%）、国内事業費（広報費・事業関連費）に 7 億 2,833 万 4,313 円（同：22.3%）、管理費に 1 億 1,132 万 2,142 円（同：3.4%）に支出しました。

※監査報告書及び財務諸表等の全文はウェブサイト www.plan-japan.org でご覧いただけます。

貸借対照表

2014 年 6 月 30 日現在（単位：円）

科目	金額
Ⅰ 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	63,263,245
流動資産合計	**63,263,245**
2. 固定資産	
(1) 基本財産	200,000,000
(2) 特定資産	
メモリアル・ファンド	138,805,160
スポンサーシップ寄付金	677,969,426
マンスリー・サポーター寄付金	67,704,000
プロジェクト特定寄付金	20,138,329
プロジェクト無特定寄付金	42,539,535
什器備品等その他の特定資産	305,271,399
(3) その他固定資産	966,875
固定資産合計	**1,453,394,724**
資産合計	**1,516,657,969**
Ⅱ 負債の部	
1. 流動負債	
未払金	53,312,620
その他流動負債	7,480,976
流動負債合計	**60,793,596**
2. 固定負債	
長期リース債務	284,375
固定負債合計	**284,375**
負債合計	**61,077,971**
Ⅲ 正味財産の部	
1. 指定正味財産	**1,452,427,849**
2. 一般正味財産	**3,152,149**
正味財産合計（注４）	**1,455,579,998**
負債及び正味財産合計	**1,516,657,969**

正味財産増減計算書

2013年7月1日から2014年6月30日まで（単位：円）

科目	金額
Ⅰ 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
①指定正味財産からの振替額（注1）	**3,028,135,331**
②事業収益	**229,971,188**
③雑収益	**1,216,155**
経常収益計	**3,259,322,674**
(2) 経常費用	
①事業費	**3,144,848,383**
プログラム実施費等	2,416,514,070
広報費	411,000,872
事業関連費	317,333,441
②管理費	**111,322,142**
経常費用計	**3,256,170,525**
当期経常増減額	**3,152,149**
当期一般正味財産増減額（a）	**3,152,149**
一般正味財産期首残高（b）	**0**
一般正味財産期末残高（c）	**3,152,149**
Ⅱ 指定正味財産増減の部	
①基本財産運用益	**198,778**
②受取寄付金（d）	**2,899,494,451**
③特定資産運用益（e）	**2,066,476**
④受取補助金等	**137,760,279**
⑤特定資産評価益	**△ 591,000**
⑥一般正味財産への振替額（注１）	**△ 3,028,135,331**
当期指定正味財産増減額（f）	**10,793,653**
指定正味財産期首残高（g）	**1,441,634,196**
指定正味財産期末残高（h）	**1,452,427,849**
Ⅲ 正味財産期末残高	**1,455,579,998**

（注１）指定・一般正味財産間の振替科目

収入内訳（この表は監査を受けていません）

（単位：千円）

科目	当年度	前年度
Ⅰ 一般正味財産増減の部		
①事業収益	**229,971**	**106,997**
②雑収益	**1,216**	**772**
Ⅱ 指定正味財産増減の部		
③基本財産運用益	**199**	**2,446**
④受取寄付金（d）	**2,899,494**	**2,849,634**
スポンサーシップ寄付金	2,012,554	2,102,342
プロジェクト特定寄付金	414,934	381,417
マンスリー・サポーター寄付金	393,179	280,344
プロジェクト無特定寄付金	78,827	85,531
⑤特定資産運用益（e）	**2,066**	**2,443**
メモリアル・ファンド利息収益	837	1,164
受取利息	1,229	1,279
⑥受取補助金等	**137,760**	**62,582**
合計	**3,270,706**	**3,024,874**

経常費用内訳（この表は監査を受けていません）

（単位：千円）

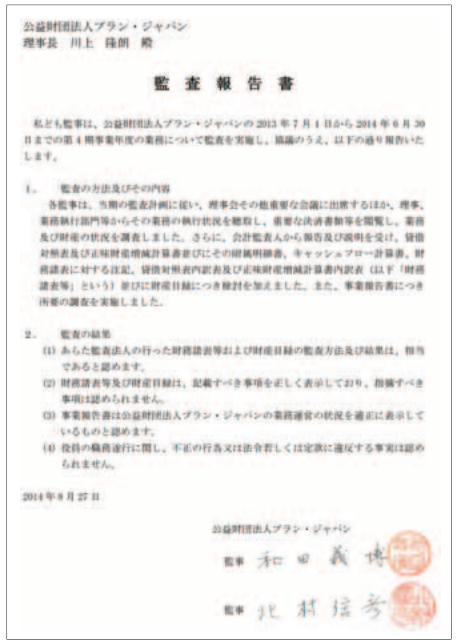
	活動国プログラム費	広告・広報費	人件費	事務費	施設費	諸雑費	当年度合計	前年度合計
①事業費	**2,416,514**	**230,240**	**226,924**	**181,306**	**87,452**	**2,412**	**3,144,848**	**2,909,116**
プログラム実施費	2,416,514	0	0	0	0	0	2,416,514	2,160,775
広報費	0	221,776	90,363	68,871	29,527	464	411,001	444,874
事業関連費	0	8,464	136,561	112,435	57,925	1,948	317,333	303,467
②管理費	**0**	**0**	**78,213**	**12,631**	**18,434**	**2,044**	**111,322**	**102,221**
合計	**2,416,514**	**230,240**	**305,137**	**193,937**	**105,886**	**4,456**	**3,256,170**	**3,011,337**

正味財産増減（収入別）（この表は監査を受けていません）

（単位：千円）

	スポンサーシップ寄付金	マンスリー・サポーター寄付金	プロジェクト特定寄付金	プロジェクト無特定寄付金	受取メモリアル・ファンド、メモリアル・ファンド利息収益	事業収益、受取補助金等	その他（基本財産受取利息、受取利息、雑収益）	計
収入	**2,012,554**	**414,934**	**393,179**	**78,827**	**838**	**367,731**	**2,644**	**3,270,707**
事業費	**1,923,911**	**379,381**	**377,552**	**93,287**	**2,655**	**364,579**	**3,483**	**3,144,848**
公益目的事業1	1,906,625	379,381	377,552	93,287	2,655	364,319	2,996	3,126,815
プラン・スポンサーシップ	1,906,625	0	1,315	0	0	100	0	1,908,040
プラン・マンスリー・サポーター	0	309,066	0	10,758	0	0	0	319,824
プラン・特別プロジェクト	0	0	299,510	4,841	1,000	0	0	305,351
プラン・一般プロジェクト	0	35,714	20,177	34,614	838	0	848	92,191
緊急・復興支援	0	0	39,136	0	0	0	0	39,136
公的資金等	0	34,601	17,414	43,074	817	364,219	2,148	462,273
公益目的事業2	17,286	0	0	0	0	260	487	18,033
管理費	**77,513**	**15,215**	**13,437**	**5,090**	**33**	**0**	**34**	**111,322**
固定資産売却損（益）・評価損（益）、特定資産評価損（益）	**11**	**0**	**0**	**0**	**580**	**0**	**0**	**591**
正味財産増減（a+f）	**11,119**	**20,338**	**2,190**	**△19,550**	**△2,430**	**3,152**	**△873**	**13,946**
当期首残高（b+g）	**951,298**	**47,367**	**17,949**	**62,089**	**141,235**	**0**	**221,696**	**1,441,634**
当期末残高（c+h）	**962,417**	**67,705**	**20,139**	**42,539**	**138,805**	**3,152**	**220,823**	**1,455,580**

監査報告書


公益財団法人プラン・ジャパン
理事長　川上　隆朗　殿

監査報告書

私ども監事は、公益財団法人プラン・ジャパンの2013年7月1日から2014年6月30日までの第4期事業年度の業務について監査を実施し、協議のうえ、以下の通り報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、当期の監査計画に従い、理事会その他重要な会議に出席するほか、理事、業務執行部門等からその業務の執行状況を聴取し、重要な決済書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。さらに、会計監査人から報告及び説明を受け、貸借対照表及び正味財産増減計算書並びにその附属明細書、キャッシュフロー計算書、財務諸表に対する注記、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表（以下「財務諸表等」という）並びに財産目録につき検討を加えました。また、事業報告書につき所要の調査を実施しました。

2. 監査の結果

(1) あらた監査法人の行った財務諸表等および財産目録の監査方法及び結果は、相当であると認めます。

(2) 財務諸表等及び財産目録は、記載すべき事項を正しく表示しており、指摘すべき事項は認められません。

(3) 事業報告書は公益財団法人プラン・ジャパンの業務運営の状況を適正に表示しているものと認めます。

(4) 役員の職務遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する事実は認められません。

2014年8月27日

公益財団法人プラン・ジャパン
監事　和田　義博
監事

独立監査人の監査報告書

2014年8月26日

公益財団法人プラン・ジャパン
理事長　川上隆朗　殿

あらた監査法人

善場秀明

以上

プラン・ジャパン事業費一覧（この表は監査を受けておりません）

（単位：円）

			合計	（内プラン・スポンサーシップ）
プログラム実施費等	アジア	バングラデシュ	61,539,966	48,655,022
		カンボジア	102,908,535	22,834,816
		中国	36,257,801	31,654,251
		インド	111,056,755	46,649,569
		インドネシア	32,670,983	22,629,713
		ラオス	4,033,695	4,033,695
		ミャンマー	18,309,792	0
		ネパール	90,389,137	45,715,210
		パキスタン	55,126,418	29,101,856
		フィリピン	78,848,339	37,807,345
		スリランカ	80,259,611	22,584,134
		タイ	35,698,326	17,935,130
		東ティモール	501,363	501,363
		ベトナム	163,716,536	63,308,502
		アジア地域統括事務所	31,596,361	31,596,361
	中南米	ボリビア	26,686,197	26,686,197
		ブラジル	5,218,735	5,218,735
		コロンビア	21,832,090	21,832,090
		ドミニカ共和国	13,810,278	13,810,278
		エクアドル	39,404,449	30,514,789
		エルサルバドル	22,515,767	22,515,767
		グアテマラ	79,794,246	21,307,937
		ハイチ	80,817,379	5,378,260
		ホンジュラス	24,703,533	24,703,533
		ニカラグア	14,926,951	14,926,951
		パラグアイ	16,271,516	16,271,516
		ペルー	17,342,610	17,342,610
		中南米地域統括事務所	17,709,923	17,709,923
	東南アフリカ	エジプト	49,295,812	32,565,820
		エチオピア	27,930,933	18,322,547
		ケニア	46,945,829	46,945,829
		マラウィ	16,408,251	16,408,251
		モザンビーク	13,000,428	1,048,305
		ルワンダ	1,139,462	1,139,462
		南スーダン	23,164,969	364,628
		スーダン	51,988,264	9,776,583
		タンザニア	28,854,766	19,188,538
		ウガンダ	54,869,620	27,483,820
		ザンビア	9,434,744	9,434,744
		ジンバブエ	46,781,240	30,036,215
		東南アフリカ地域統括事務所	17,083,962	17,083,962
	西アフリカ	ベナン	142,540,001	7,406,502
		ブルキナファソ	35,209,372	35,209,372
		カメルーン	56,362,828	11,782,036
		ガーナ	60,012,968	17,000,771
		ギニア	20,920,520	20,920,520
		ギニアビサウ	5,651,731	5,651,731
		マリ	27,129,589	22,584,134
		ニジェール	5,537,785	5,537,785
		セネガル	46,057,682	34,525,695
		シエラレオネ	2,962,601	2,962,601
		トーゴ	63,395,839	20,806,574
		西アフリカ地域統括事務所	14,808,907	14,808,907
	緊急復興支援基金積立額		8,033,071	8,033,071
	プラン・インターナショナル国際本部プログラム管理費		129,614,690	129,614,690
	プラン・インターナショナル国際本部管理費		67,291,435	67,291,435
	為替差損（益）		60,139,479	60,139,479
	小計		**2,416,514,070**	**1,357,299,560**
国内事業費　広報費			411,000,872	328,148,173
国内事業費　事業関連費			317,333,441	238,462,953
事業費計			**3,144,848,383**	**1,923,910,686**
管理費			**111,322,142**	**77,513,080**
合計			**3,256,170,525**	**2,001,423,766**

2014年度 プラン国際連結決算報告

2013年7月1日～2014年6月30日

これらの決算報告は、国際監査法人プライスウォータハウスクーパーズの監査を受け、各国のプラン理事からなるプランメンバーズ総会により承認された国際連結決算の抜粋です。

世界の皆さまからのご支援により、収入は7億2,167万ユーロとなり、途上国の地域開発・緊急復興支援プロジェクトに5億3,595万ユーロを充てることができました。

※1ユーロは約139円です（2014年6月30日現在）

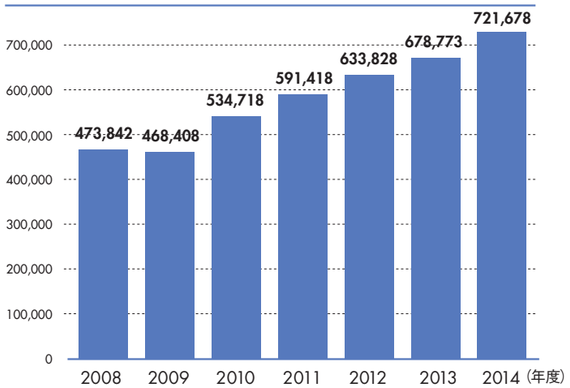
連結損益計算書及び連結包括損益計算書

2013年7月1日～2014年6月30日
（単位：1,000€）

科目	当年度	前年度
Ⅰ 収益		
スポンサーシップ寄付金	354,262	368,613
受取助成金	231,665	184,347
現物助成金	30,462	35,554
その他寄付金	97,301	83,071
受取利息	3,083	1,794
事業収益	4,905	5,394
収益合計	**721,678**	**678,773**
Ⅱ 費用		
プログラム費	535,950	527,214
広報費	100,476	110,113
管理費	59,256	54,409
収益事業費	4,647	5,004
為替損益計算前支出合計	**700,329**	**696,740**
為替損益	8,171	6,545
費用合計	**708,500**	**703,285**
Ⅲ 包括損益		
当期損益差額	**13,178**	**(24,512)**
退職給付引当金見積変更	102	(432)
有価証券評価損益	(164)	497
外貨換算調整	(3,909)	(7,812)
当期包括損益差額	**9,207**	**(32,259)**

収入額の推移

（単位：1,000€）



連結貸借対照表

2014年6月30日現在（単位：1,000€）

科目	2014/6/30	2013/6/30
Ⅰ 資産の部		
1 流動資産		
現金及び現金同等物	242,641	247,550
売却可能有価証券	17,606	17,303
満期保有目的有価証券	3,016	141
未収金	26,283	29,507
前払費用	11,250	10,011
棚卸資産	10,829	2,809
流動資産合計	**311,625**	**307,321**
2 固定資産		
売却可能有価証券	5,948	7,157
満期保有目的有価証券	1,461	30
金銭信託等その他金融資産	942	936
有形固定資産	30,011	27,559
無形固定資産	15,271	14,908
未収金	2,272	932
固定資産合計	**55,905**	**51,522**
資産合計	**367,530**	**358,843**
Ⅱ 負債の部		
流動負債		
当座借越	1,894	345
未払金	14,246	17,860
未払費用	31,915	34,535
退職給付引当金等	22,300	20,774
流動負債合計	**70,355**	**73,514**
固定負債		
借入金	1,814	-
繰延収益	1,875	-
退職給付引当金等	1,400	1,464
その他固定負債	2,531	3,517
固定負債合計	**7,620**	**4,981**
負債合計	**77,975**	**78,495**
Ⅲ 正味財産の部		
一般正味財産	115,182	144,771
一時的指定正味財産	158,478	119,841
永久的指定正味財産	15,895	15,736
正味財産合計	**289,555**	**280,348**
負債及び正味財産合計	**367,530**	**358,843**

プログラム費国別内訳（この表は監査を受けておりません）

（単位：1.000€）

		保健	性と生殖に関する健康と権利	教育	水と衛生	家計の安定	子どもの保護	子どもの参加	緊急支援	プログラム共通費	スポンサーシップコミュニケーション／開発教育	合計
アジア	バングラデシュ	3,372	60	969	247	2,123	1,259	1,275	408	2,803	171	12,686
	カンボジア	3,520	140	1,559	1,503	1,675	375	763	394	2,134	231	12,296
	中国	621	0	676	32	24	253	430	352	1,986	464	4,839
	インド	2,062	931	1,658	1,064	1,202	1,095	1,264	1,481	1,001	962	12,720
	インドネシア	958	0	425	1,768	1,793	392	165	505	2,604	787	9,397
	ラオス	232	0	738	268	29	17	220	94	1,075	132	2,805
	ミャンマー	70	0	221	232	54	86	16	868	634	0	2,182
	ネパール	540	8	1,150	650	1,386	243	946	229	2,214	263	7,629
	パキスタン	1,459	273	1,223	683	1,067	114	361	777	1,959	439	8,354
	フィリピン	1,160	0	956	506	389	234	576	23,952	2,826	384	30,983
	スリランカ	425	0	289	179	56	284	177	34	1,633	223	3,299
	タイ	462	203	415	3	488	175	114	161	1,020	166	3,207
	東ティモール	2	68	494	463	140	59	61	57	790	182	2,315
	ベトナム	1,291	0	1,638	686	684	517	1,491	1,142	2,353	756	10,558
	地域統括事務所（タイ）	60	0	114	20	120	418	440	498	2,545	99	4,312
	アジア小計	**16,233**	**1,683**	**12,523**	**8,302**	**11,231**	**5,521**	**8,300**	**30,953**	**27,578**	**5,259**	**127,583**
中南米	ボリビア	2,268	534	1,115	503	722	364	1,185	158	2,651	772	10,272
	ブラジル	123	160	233	63	239	282	599	13	2,188	439	4,339
	コロンビア	4,089	646	3,383	1,622	1,926	1,939	2,526	3,608	919	1,593	22,252
	ドミニカ共和国	122	3	124	0	73	164	217	270	2,264	189	3,426
	エクアドル	68	263	934	119	135	214	742	334	3,969	902	7,680
	エルサルバドル	1,135	1,355	405	95	818	97	1,308	462	2,938	378	8,990
	グアテマラ	951	738	955	117	594	770	1,011	439	2,148	323	8,046
	ハイチ	337	5	758	326	288	53	410	135	3,296	954	6,563
	ホンジュラス	328	80	758	63	137	502	789	176	2,275	461	5,569
	ニカラグア	465	197	225	68	325	695	870	120	1,342	389	4,696
	パラグアイ	106	15	151	222	142	44	337	166	1,528	214	2,925
	ペルー	369	16	315	53	127	59	330	66	2,430	307	4,072
	地域統括事務所（パナマ）	113	14	144	0	0	167	592	423	2,865	87	4,406
	中南米小計	**10,474**	**4,026**	**9,499**	**3,252**	**5,527**	**5,350**	**10,915**	**6,372**	**30,814**	**7,008**	**93,236**
東南アフリカ	アルバニア	(3)	0	(116)	(14)	0	0	(6)	0	(16)	0	(155)
	エジプト	586	98	458	174	434	435	1,132	4	2,675	945	6,941
	エチオピア	670	0	1,248	564	552	388	384	1,617	2,494	466	8,383
	ケニア	1,506	98	1,148	1,539	1,232	734	1,327	163	3,502	1,301	12,549
	マラウィ	1,108	31	429	1,696	685	591	1,535	4,653	1,575	293	12,597
	モザンビーク	299	2	323	24	518	73	139	74	1,205	204	2,861
	ルワンダ	401	0	1,089	15	875	347	584	114	1,559	172	5,156
	南スーダン	15	0	119	93	416	29	200	5,350	2,496	139	8,856
	スーダン	710	32	1,222	431	431	502	62	2,871	1,680	469	8,410
	タンザニア	4,166	82	54	829	1,033	202	502	21	2,695	375	9,960
	ウガンダ	8,050	3,392	1,100	1,593	1,087	794	1,290	493	4,500	902	23,201
	ザンビア	628	197	538	408	739	184	1,358	0	2,649	335	7,036
	ジンバブエ	1,804	47	2,044	546	2,137	1,161	405	7,809	1,657	777	18,388
	地域統括事務所（ケニア）	2	0	0	(8)	0	130	85	310	3,917	163	4,599
	東南アフリカ小計	**19,942**	**3,979**	**9,657**	**7,889**	**10,139**	**5,570**	**8,997**	**23,479**	**32,589**	**6,541**	**128,782**
西アフリカ	ベナン	3,155	1,700	512	121	1,140	201	367	29	2,397	420	10,043
	ブルキナファソ	4,127	60	3,216	2,324	284	168	176	1,301	2,968	565	15,190
	カメルーン	2,956	102	2,284	278	331	114	288	703	2,491	305	9,853
	ガーナ	1,148	1	1,477	449	935	180	710	23	1,584	329	6,837
	ギニア	576	54	1,673	360	225	158	548	163	1,353	636	5,746
	ギニアビサウ	333	0	630	367	90	180	130	12	1,749	202	3,692
	リベリア	1,715	47	305	117	94	0	77	5	1,613	139	4,112
	マリ	1,592	695	785	911	448	232	862	2,923	2,677	337	11,463
	ニジェール	317	2	821	616	389	99	138	3,126	3,042	311	8,861
	ナイジェリア	155	26	124	64	74	54	90	140	0	61	786
	セネガル	3,567	0	964	438	611	93	358	1	2,869	634	9,535
	シエラレオネ	2,117	0	3,112	1,123	1,419	377	254	142	2,214	179	10,938
	トーゴ	2,400	0	641	965	463	319	862	35	1,908	603	8,197
	地域統括事務所（セネガル）	170	0	320	446	221	162	899	373	3,217	141	5,949
	西アフリカ小計	**24,329**	**2,687**	**16,866**	**8,576**	**6,724**	**2,335**	**5,759**	**8,978**	**30,083**	**4,863**	**111,200**
調整項目		19,984	2,823	24,121	9,365	10,151	12,698	18,830	12,346	(121,064)	12,270	1,524
活動国合計		**90,961**	**15,198**	**72,666**	**37,384**	**43,772**	**31,474**	**52,801**	**82,129**	**0**	**35,940**	**462,325**
支援国		4,045	5,532	7,604	3,774	5,809	6,321	8,325	4,761	0	5,717	51,888
国際本部		3,108	519	2,483	1,277	1,495	1,256	4,314	4,324	0	2,961	21,737
合計		**98,114**	**21,249**	**82,753**	**42,435**	**51,076**	**39,051**	**65,440**	**91,214**	**0**	**44,618**	**535,950**

2014年度
プラン・ジャパン
年次報告書

ANNUAL REPORT 2014
2013/7～2014/6

VISION プランの目標

人々の権利と尊厳が守られ、すべての子どもたちが能力を最大限に
発揮できる世界を実現する

MISSION プランの使命

1. 子ども、家族、地域の人々が、人間としての基本的な生活条件を備え、
   社会活動に参加し、自立を達成できるよう支援する
2. 異なる国籍や文化を持つ人々の相互理解を深め、皆が協力できる関係を築く
3. 世界中の子どもたちの権利と利益の確立を図る

STRATEGIC DIRECTION プランの活動方針

1. 子どもたちとともに途上国の地域開発を進める
2. 貧困に苦しむ子どもたちを長期にわたり支援する
3. できるかぎり多くの子どもを支援する
4. 「子どもの権利」を守るため、世界中の人々をつなげる
5. 問題解決に向けて、政府や関連機関と協力・連携する
6. 子どもたちの声を発信する

公益財団法人プラン・ジャパン

〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22
サンタワーズセンタービル10F
TEL 03-5481-6100 FAX 03-5481-6200
（業務時間 / 土・日・祝日を除く 9:00～17:30）
service@plan-japan.org
www.plan-japan.org

表紙撮影地 / カンボジア
この冊子は、1冊あたり約47円で製作されています

Accountability Self-Check 2008

これは、JANICの「アカウンタビリティ・セルフチェック2008」マークです。JANICのアカウンタビリティ基準の4分野（組織運営・事業実施・会計・情報公開）について当団体が適切に自己審査したことを示しています。

子どもと築く、未来のしくみ

Plan
プラン・ジャパン